

共立女子大学ビジネス学部ビジネス学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
① 学生の確保の見通し	2
ア. 定員充足の見込み	2
イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	4
ウ. 学生納付金設定の考え方	7
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	7
(2) 人材需要の動向等社会の要請	10
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）	10
② 上記①が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	10

**共立女子大学ビジネス学部ビジネス学科
学生の確保の見通し等を記載した書類**

(1) 学生確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア. 定員充足の見込み

1. 入学定員設定の考え方

ビジネス学部の入学定員については、東京都の人口予測と地域別の18歳人口及び大学進学者数の推計、私立大学地域別の入学志願動向、ビジネス学部の同系統学部や競合する大学の入学志願動向、本学既設学部の入学志願動向、高校2年生女子生徒への進学意向調査結果を踏まえつつ、ビジネス学部の特長である、入学時から修了時までに学生一人ひとりが自分の「個性」や「強み」を理解し成長を実感できる学修者本位の教育を実施するため、適切な定員規模として、150名に設定する。

2. 定員充足の見込み

1) 「東京都の人口予測」と「地域別の18歳人口及び大学進学者数の推計」

本学が所在する東京都の人口推移について、東京都総務局統計部が作成した「東京都区市町村別人口の予測」を確認した。本予測は、平成27年国勢調査結果を基準とし、常住地に基づく将来の総人口について、区市町村ごとに男女別に予測を行ったもので、予測期間は平成32(2020)年、平成37(2025)年、平成42(2030)年、平成47(2035)年、平成52(2040)年の5時点である。当該資料によると、本学の入学対象となる女性の総人口は、平成52(2040)年まで一貫して減少することはないが、東京都の人口推移は安定していることが分かる。

また、同資料には、平成28年から平成45(2033)年までの大学・短大進学者数及び大学・短大進学率について、3つの仮定で試算されている。

3つのうち、平成45(2033)年がどの試算となるのか定かではないが、東京圏を他のエリアと比べると、18歳人口の影響を比較的受けにくい状況であると読み取れる。

【資料1：東京都の人口予測（平成52(2040)年まで）】

【資料2：18歳人口、進学者数の推計について】

2) 私立大学地域別の入学志願動向

本学が所在する東京都は、平成24年度から平成30年度まで、入学定員や志願者が常に増加しており、安定した志願者及び受験者を確保している。なお、全国の志願倍率の平均に比べ、東京都の平均は高い数値になっている。

また、入学定員充足率の直近5ヵ年平均を地域別にみると、100%を下回っている地域がある中、東京都は100%以上を保っており、安定的に入学者を確保していることがうかがえる。

【資料3：全国私立大学地域別の入学志願動向（平成24年度～平成30年度）】

3) ビジネス学部と同系統学部の入学志願動向

日本私立学校振興・共済事業団私学振興事業本部ホームページ公表の「私立大学・短期大学等入学志願動向」によると、ビジネス学部と同系統となる「社会科学系」においては、志願者数は1,133,175人（平成24年度）から1,557,832人（平成30年度）と増加傾向が顕著であり、志願倍率が過年度平均で7.5倍になっている。特に学問分野が同系統となる「経済学部」「経営学部」「商学部」を個別にみても、安定的に志願者及び入学者を確保しており、過年度の志願倍率は8倍程度で推移し、入学定員充足率も105%程度で安定的に推移している。

また、ビジネス学部の開設後に競合が想定される東京都内大学社会科学系の22学部の直近3カ年の入学志願動向を見ても、入学定員は常に増加傾向にありながらも、安定した志願者及び入学者を確保しており、中でも、近年設置された女子大学のうち、津田塾大学総合政策学部（平成29年度開設）、昭和女子大学グローバルビジネス学部（平成25年度開設）は、入学定員を100名～200名の間に設定し教育を展開し、安定した志願者及び入学者を確保している。

【資料4：全国私立大学学部系統別の入学志願動向（平成24年度～平成30年度）】

【資料5：東京都内社会科学系学部の入学志願動向】

4) 本学既設学部の入学志願動向

本学既設学部の直近5カ年の入学志願動向をみると、いずれの学部においても実志願倍率は、3～4倍程度、実合格倍率も近年は2～3倍程度で推移しており、入学者も安定的に確保している。

【資料6：共立女子大学既設学部の入学志願動向】

5) 高校2年生女子生徒への進学意向調査結果

ビジネス学部の入学定員に対する学生確保の見通しをより明らかにするために、平成30年10月～11月にかけて、ビジネス学部の受験対象者となる高校2年生女子生徒を対象に進学意向調査（アンケート調査）を実施した。

本調査において、ビジネス学部を「受験したいと思う」と回答した高校生は599人、そのうち497人が「入学したいと思う」と回答しており、本学が設定するビジネス学部の入学定員150名を大きく上回る入学意向を確認した。

【資料7：共立女子大学ビジネス学部に関する進学意向調査結果報告書】

以上の1)～5)の調査等により、ビジネス学部の入学定員150名については、安定的に確保し得ると考えることができる。

イ. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

1. 東京都の人口予測

本学が所在する東京都の人口推移について、東京都総務局統計部が作成した「東京都区市町村別人口の予測」を確認した。本予測は、平成 27 年国勢調査結果を基準とし、常住地に基づく将来の総人口について、区市町村ごとに 男女別に予測を行ったもので、予測期間は平成 32 (2020) 年、平成 37 (2025) 年、平成 42 (2030) 年、平成 47 (2035) 年、平成 52 (2040) 年の 5 時点である。

各年の総人口予測を平成 27 年の総人口と比較すると、各年の増減率は、平成 32 (2020) 年が 2.5%、平成 37 (2025) 年が 3.3%、平成 42 (2030) 年が 3.1%、平成 47 (2035) 年が 1.8%、平成 52 (2040) 年が -0.4% (-56,789 人) という予測であり、平成 52 (2040) 年に減少に転じている。

これについて、男女別に分けてそれぞれ平成 27 年の人口と比較すると、男性の各年の増減率は、平成 32 (2020) 年が 2.1%、平成 37 (2025) 年が 2.7%、平成 42 (2030) 年が 2.2%、平成 47 (2035) 年が 0.6%、平成 52 (2040) 年が -1.8% (-122,924 人) である。

一方、女性の各年の増減率は、平成 32 (2020) 年が 2.9%、平成 37 (2025) 年が 4.1%、平成 42 (2030) 年が 4.1%、平成 47 (2035) 年が 2.9%、平成 52 (2040) 年が 1.0% (+66,135 人) であり、女性の総人口は、平成 52 (2040) 年まで一貫して減少することはない。

本学の入学対象となる女性について、東京都の人口推移は安定していることが分かる。

【資料 1 : 東京都の人口予測 (平成 52 (2040) 年まで)】

2. 地域別の 18 歳人口及び大学進学者数の推計

文部科学省中央教育審議会将来構想部会での配付資料「2. 進学者数等の推計について」において、平成 27 年度現在の小学校 1 年生～中学校 3 年生及び平成 23 年～26 年度の中学校卒業生の数をもとに、平成 28 年から平成 45 (2033) 年までの 18 歳人口の推計値が算出されている。平成 27 年と平成 45 (2033) 年の 18 歳人口の地域ブロック別の比較表をみると、全国の 18 歳人口の増減率は -16.7%、東京圏の 18 歳人口の増減率は -7.5% と推計されている。

また、同資料には、平成 28 年から平成 45 (2033) 年までの大学・短大進学者数及び大学・短大進学率について、3 つの仮定で試算されている。

【試算①】は、平成 45 (2033) 年までの各年の大学・短大進学率が各県で平成 27 (2015) 年の大学・短大進学率と同率と仮定、【試算②】は、平成 45 (2033) 年の大学・短大進学率が各県で平成 27 (2015) 年の大学・短大進学希望率 (志願率) と同率と仮定、【試算③】は、平成 45 (2033) 年までの各年の各県への大学・短大進学者数が平成 27 (2015) 年と同数と仮定されている。

これについて、東京圏の状況を見てみると、【試算①】は、平成 27 年の進学者数が 182,434 人なのに対して、平成 45 (2033) 年は 173,153 人で 9,281 人減少 (5.1% の減

少)、【試算②】は、平成 27 年の進学者数が 182,434 人なのに対して、平成 45 (2033) 年は 194,290 人で 11,856 人増加 (6.5%の増加)、【試算③】は、平成 27 年と平成 45 (2033) 年の進学者数が 182,434 人の同数で、進学率が平成 27 年は 61.4%なのに対して、平成 45 (2033) 年は 64.7%に増加すると試算されている。

平成 45 (2033) 年が、【試算①】【試算②】【試算③】のどの姿になるのか定かではないが、【試算②】では 18 歳人口が減少する中でも、進学者数が増加するという試算がされているなど、東京圏を他のエリアと比べると、18 歳人口の影響を比較的受けにくい状況であると読み取れる。

【資料 5 : 18 歳人口、大学進学者数の推計について】

3. 私立大学地域別の入学志願動向

「私立大学・短期大学等入学志願動向 (日本私立学校振興・共済事業団)」に基づき、全国の私立大学地域別の動向をみると、以下の通りである。

本学が所在する東京都の学校数は、平成 24 年度の 112 校から平成 30 年度の 114 校へと 2 校増加し、入学定員も 162,757 人から 179,549 人へと増加している。

また、東京都の平成 24 年度から平成 30 年度の入学定員充足率の平均は、108.68%であり、全国平均の 104.32%を上回っている状況である。

志願者については、平成 24 年度の 1,585,103 人から平成 30 年度の 1,941,659 人へと著しく増加し、志願倍率は、平成 24 年度から平成 30 年度にかけて 9 倍台～10 倍台で推移しており、平均は 10.00 倍になっている。

【資料 3 : 全国私立大学地域別の入学志願動向 (平成 24 年度～平成 30 年度)】

4. 私立大学学部系統別の入学志願動向

「私立大学・短期大学等入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団)に基づき、ビジネス学部が含まれる「社会科学系」分野の状況は、以下の通りである。

学部数及び入学定員については、平成 24 年度の 510 学部から平成 30 年度の 513 学部へと 3 学部増加し、入学定員についても 168,952 人から 169,202 人へと 250 人増加している。志願者については、平成 24 年度の 1,133,175 人から平成 30 年度の 1,557,832 人へと 424,657 人増加している。志願倍率については、平成 24 年度から平成 30 年度にかけて、7 倍程度で推移しており、特に平成 29 年度は 8.5 倍、平成 30 年度は 9.2 倍と高い倍率になっている。さらに、入学定員充足率をみると、毎年度 100%を上回っており、過年度平均は 104.2%になっている。

同系統の学部である、「経済学部」「経営学部」「商学部」の動向をみても、近年の志願者数は増加傾向にあり、平成 24 年度から平成 30 年度の志願倍率の平均は、経済学部が 8.2 倍、経営学部が 8.3 倍、商学部が 8.1 倍と高い倍率になっている。また、入学定員充足率をみると、3 学部ともに 100%を下回った年度は無く、平成 24 年度から平成 30 年度の入学定員充足率の平均は、経済学部が 105.1%、経営学部が 104.5%、商学部が 106.4%になっている。

【資料 4 : 全国私立大学学部系統別の入学志願動向 (平成 24 年度～平成 30 年度)】

5. 東京都内社会科学系学部の入学志願動向

競合が想定される学部として、東京都内の大学で、社会科学系学部を持ち且つ本学既設学部（特に、本学既設学部の中でも社会科学系に近い「国際学部」）の偏差値帯に近い学部を選定し、計 22 学部の入学志願動向を分析した。

具体的には、各大学の一般入試における志願者数、合格者数、入学者数について、「各大学のホームページ」「旺文社パスナビ」「大学通信：Campus Navi Perfect」からの情報を基にして志願倍率（志願者数／募集人数）、合格倍率（志願者数／合格者数）及び入学定員充足率（入学者数／入学定員）を算出し、入学志願動向の分析を行った。

22 学部の直近 3 ヶ年平均の志願倍率は 10.54 倍、合格倍率は 4.86 倍、入学定員充足率は 1.10 である。また、女子大学に限ってみても、直近 3 ヶ年平均の志願倍率は 7.94 倍、合格倍率は 3.22 倍、入学定員充足率は 1.18 になっており、入学志願動向は安定している。

【資料 5：東京都内社会科学系学部の入学志願動向】

6. 本学既設学部の入学志願動向

本学既設学部の近年の入学志願動向をみると、近年はいずれの学部においても実志願倍率は 3～4 倍程度、実合格倍率は 2～3 倍程度で推移しており、入学者数も安定的に確保している。

既設学部は、人材養成目的や教育内容等はビジネス学部とは異なるが、本学の建学の精神である「女性の自立と自活」という理念の下に設置し、本学の教育の特色である少人数クラスによる語学教育、アカデミックアドバイザー（担任）によるきめ細やかな指導等、各学部を通じて多くの共通点を有しており、本学全体の大きな魅力になっている。

また、昨今の多様な人材を求める社会ニーズの高まり、更なる女性の社会進出と活躍の場の拡大はもとより、企業等でリーダー層として働く女性の増加を強く求めるようになった社会の要請に対応した教育内容であることも踏まえると、ビジネス学部においても既設学部同様に、安定した学生の確保が見込まれると考える。

【資料 6：共立女子大学既設学部の入学志願動向】

7. ビジネス学部に関する進学意向調査結果

学生の確保の見通しを客観的に把握するため、ビジネス学部開設初年度の入学生となる平成 30 年度に高校 2 年生である女子生徒を対象にして、進学意向調査（アンケート調査）を実施した。

本調査の概要は以下の通りである。

調査対象	高校 2 年生女子生徒
調査方法	高校留め置き調査
調査項目	・性別

	・高校種別 ・高校所在地 ・高校卒業後の希望進路 ・身につけたい能力・特性 ・「ビジネス学部ビジネス学科」の特色に対する魅力度 ・「ビジネス学部ビジネス学科」への受験意向 ・「ビジネス学部ビジネス学科」への入学意向
実施時期	平成 30 年 10 月 15 日（月）～11 月 14 日（水）
回収状況	依頼 4,866（31 校） 回収 3,552（29 校）（回収率 73.0%）
調査実施機関	株式会社 進研アド

調査対象校は、本学既設学部において一定の志願者があり、且つ入学実績のある高等学校を中心に選定した。

アンケート調査の際には、ビジネス学部は平成 32（2020）年 4 月の開設を目指して計画であり、変更があり得る旨を明確にしたうえで、基本情報として学部名称、入学定員、養成する人材像、教育課程の特色、ビジネスの現場を知る先輩からのメッセージ、学生納付金、設置場所（アクセス）を記載した設置構想リーフレットを配付し、ビジネス学部には十分理解をいただいたうえで回答をお願いした。

上記調査の結果、一部の高等学校を対象に実施したアンケート調査ではあるものの、ビジネス学部を「受験したいと思う」と回答した人数が 599 名、「進学したいと思う」と回答した人数が 497 名となり、ビジネス学部の入学定員 150 名を十分に上回っており、学生確保の見通しは良好であると考えられる。

【資料 7：共立女子大学ビジネス学部に関する進学意向調査結果報告書及び設置構想リーフレット【調査実施機関：株式会社進研アド】】

ウ. 学生納付金設定の考え方

ビジネス学部の学生納付金は、入学金 150,000 円、授業料 750,000 円、施設設備費 390,000 円と設定している。

上記納付金については、大学経営に係る財務的な視点と学生納付金に対する学生への教育の還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえつつ、完成年度において収支均衡が確保されるよう分析し、且つ本学既設学部の学生納付金及び競合が想定される東京都内社会科学系学部における学生納付金の設定状況も勘案したうえで設定した。

【資料 8：既設学部及び東京都内社会科学系学部の学生納付金】

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

ビジネス学部の学生を安定的に確保するため、広報活動の基本方針として、「本学の志願者の約 8 割を占める東京圏を広報活動の最重点地域と定め、重点的な広報を行う」と

もに、そのほか約 2 割程度を占めている地域（茨城県、栃木県、群馬県、静岡県）についても、重点的に広報を行う。」と定め、各種広報ツールの活用やイベントの実施等を展開していく。

なお、広報を行う際には、ビジネス学部は平成 32（2020）年 4 月の開設を目指して計画中であり、変更があり得る旨を明確に示し、社会や高校生、保護者、高校教員等のステークホルダーに誤解を与えることのないように十分留意する。

また、入学者選抜、教育内容・方法、学生生活支援、就職進路支援、施設・設備等の改善・充実に努め、安定的な学生確保に努める。

1. ビジネス学部リーフレットの製作・配布

学部・学科名称、入学定員、学生納付金、カリキュラム、教育方法、特色、卒業後の将来像、キャンパス所在地等を記載したリーフレットを製作し、高校生、保護者、高校教員等のステークホルダーに配布する。また、資料請求先への送付のほか、ダイレクトメールによる発送、オープンキャンパスや進学相談会等での配布を行い、ビジネス学部の認知度向上を図る。

2. オープンキャンパスの開催

例年 6 月～8 月、12 月、3 月にオープンキャンパスを計 7 回開催しており、平成 31 年度においても、例年通り 7 回のオープンキャンパスを開催する予定である。例年のオープンキャンパスにおいては、在学生によるキャンパスツアー、フリートーク、本学教員による体験授業、個別相談等、在学生や教員との懇談の機会を設けており、平成 30 年度からはビジネス学部に対する理解を深めてもらうために、ビジネス学部リーフレットの配布や学部紹介など、理念、教育内容、特色等について説明する機会を設けるとともに模擬授業を実施している。今後も引き続き、ビジネス学部の教育内容等を積極的に説明し、ビジネス学部に対する理解を深めてもらう。

3. 進学相談会への参加

学外イベントである進学相談会と高校内説明会は、東京圏を中心に東日本の受験生及び保護者に直接接触し、ビジネス学部に興味・関心を抱いてもらうための機会と位置付け、学内イベントであるオープンキャンパスとキャンパス見学への誘導を図る。

4. 進学情報誌への掲載

各種進学情報誌へビジネス学部の情報を掲載し、学部の特色、ビジネス学部に関するイベント実施日程等の情報を提供する。

5. ホームページ及び SNS の活用

平成 30 年 4 月に本学ホームページ内にビジネス学部特設サイトを開設した。本サイトには、入学定員等の基本情報、学部長予定者（新学部設置準備室長）のメッセ

ージ、カリキュラム、ビジネス学部の特徴、卒業後の進路イメージなど多岐にわたる情報を掲載している。また、動画を取り入れながら、高校生等のステークホルダーにビジネス学部での学びのイメージが湧くような工夫をしている。

平成 31 年度以降も、ビジネス学部設置準備の進捗に応じて特設サイトを随時更新し、より詳細な情報提供を行う。

また、大学公式の SNS (Facebook、Twitter、Instagram) も有効的に活用してリアルタイムな情報提供を行い、来校が困難な遠隔地の高校生、保護者、高校教員に対しても教育の特徴やキャンパスの魅力を訴求する。

6. 高校教員対象説明会の開催と高校訪問の実施

例年 6 月に高校教員対象説明会を開催している。毎年 100 校程度の高校教員の参加があり、本学の理念・目的、教育内容・方法、就職・進路等、高校での進路指導の参考になるよう情報提供を行っている。平成 30 年度は、6 月 1 日と 2 日に開催し、ビジネス学部の理念、教育内容・方法、教育の特徴等についての情報提供もあわせて行った。

また、平成 28 年度から、本学への入学実績のある高等学校を中心に約 150 校を対象として年 2 回訪問し、本学既設学部についての説明及び高校教員との意見交換を行っている。平成 30 年度には、151 校に対して延べ 264 回の高校訪問を実施し、ビジネス学部のリーフレットの配付と教育内容の特徴等の説明もあわせて行った。

以上の取り組みを平成 31 年度以降も継続し、進路指導教員をはじめとした関係者にビジネス学部に対する理解を深めてもらう。

7. 新たな受験者層へのアプローチ

ビジネス学部は本学にとって初めての経済・経営系の学部である。本学では従来、商業科や情報処理科等を設置している高等学校からの志願者は極めて少なかった。新たな受験者層へのアプローチとして、商業科や情報処理科等を設置している高等学校へ教職員が訪問し、ビジネス学部の理念、教育内容・方法、特色等について説明する機会を設け、ビジネス学部の魅力を訴求する。

8. 長期的な学生募集につながるイメージを築くための広報

ビジネス学部では、本学の特長である「オフィス街や商業エリアが多く集まる丸の内・大手町から徒歩圏内」という立地を活かして、企業等と連携した PBL の手法を取り入れた授業を必修科目として配置する。

当該科目では、経営、マーケティング、経済、会計の基礎を学ぶ講義で得た知識と技能を活用して、最終的にビジネス提案を行うことにより、理論のみならず、理論を活用できる実践力を身につけることができる。

また、多様で充実した教員組織（実務経験豊富な教員やキャリア・カウンセラーの資格を有している教員等）によるキャリア支援などを通して、学生のキャリア意識を早期の段階から醸成することにより、高い就職率を目指している。

このような、ビジネス学部の独自性に焦点を当てた広報を行い、他大学の同系統分野の学部との差異化・特色化を図る広報を展開する。

9. 教育改革に関わる広報

学長を中心として、教育の質の向上に関わる取組を継続して実施している。近年では、3つのポリシーの明確化とそれに基づくカリキュラムチェック、アセスメント・ポリシーの策定と自己点検・評価による内部質保証機能の強化、履修系統図の策定、教養教育課程の抜本的見直し、ルーブリック評価の導入、LMS（Learning Management System：学習管理システム）の導入、学修ポートフォリオの導入などが挙げられる。

このような教育改革に向けた取組に焦点を当てた広報を行い、他大学の同系統分野との差異化・特色化を図る広報を展開する。

（2）人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

一億総活躍の中核をなす女性活躍の場の拡大、あらゆる分野における女性リーダーを求めるニーズ、中央教育審議会答申等に記されるこれからの人材に必要な能力、産業界の大学に対する期待と求める人材像等を踏まえつつ、本学が130年以上にわたり受け継いできた「女性の自立と自活」という建学の精神等に基づき、ビジネス学部の人材養成目的は、「ビジネスの場で活用できる知識・技能と必要な教養を身に付け、他者と協働してリーダーシップを発揮できる人材を養成する。」ことを掲げる。

具体的には、現代社会の諸変化に対応し力強く邁進する企業、公的部門、NPO法人等、ビジネスを大きく包摂するフィールドで活躍できる女性を輩出することであり、ビジネスの現場で、自分らしくリーダーシップを発揮し、将来、リーダー層に成長していく女性を養成することを目指す。特に、経営、マーケティング、経済、会計のほか、英語、法律、情報・統計などビジネスに関わる幅広い学問を総合的に修得し、企業等と連携したPBLの手法を取り入れた授業を展開することで、学生はビジネスを身近に体感しながら自ら問題の発見・解決に取り組む課題解決力や他者との協働の中でチームワークやリーダーシップを発揮していく力を身につける。

② 上記①が社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

1. ビジネス学部が養成する人材の社会的な需要

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」（平成30年11月中央教育審議会答申）によると、高等教育が目指すべき姿として、「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な機能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材を養成」と記されている。

また、文部科学省白書（平成 29 年度版）によると、「今後の人材育成においては、新たな知識・技能を習得するだけでなく、学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成することが特に重要となっています。このことを通じて、自主的・自律的に考え、多様な他者と協働しながら、新たなモノやサービスを生み出し、社会に新たな価値を創造し、より豊かな社会を形成することのできる人を育てていかなければなりません。（～中略～）特に、大学教育の質については、社会で求められる人材が高度化・多様化する中で、教養・知識等に加え、課題発見・探求のための批判的思考力や判断力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い得る倫理的・社会的能力などの育成をすることが求められています。」と記されている。

産業界については、「これからの企業・社会が求める人材像と大学への期待」（平成 27（2015）年 4 月公益社団法人経済同友会）によると、企業が求める人材像と必要な資質能力として、「変化の激しい社会で、課題を見出し、チームで協力して解決する力（課題設定力・解決力）」、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力（耐力・胆力）」、「多様性を尊重し、異文化を受け入れながら組織力を高める力」、「価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力（コミュニケーション能力）」であると記されている。

また、経団連が調査した「高等教育に関するアンケート結果」（平成 30（2018）年経団連）によると、産業界が学生に求める資質、能力、知識（文系）について、主体性、実行力、課題設定・解決能力、チームワーク・協調性の順に高いポイントとなっており、「自らの問題意識に基づき課題を設定し、主体的に解を作り出す能力が求められていることが示された。また、論理的思考力や意見の発信・傾聴力、情報活用能力、外国語能力なども一定のポイントを得ており、基本的な能力に基づく課題解決能力等が求められていることがわかる。」と記されている。

こうして社会からの要請を整理していくと、社会的な需要は、ビジネスの世界で活用できる基礎的で普遍的な知識と技能を持っていること、自ら問題の発見・解決に取り組める課題解決力を有していること、多様性を尊重し、チームで解決できる協働力を有していること、チームワークやリーダーシップを発揮する力を有していることであると言える。

以上のことから、ビジネス学部の人材養成目的を「ビジネスの場で活用できる知識・技能と必要な教養を身に付け、他者と協働してリーダーシップを発揮できる人材を養成する。」と定めた。

2. 本学既設学部の就職実績と今後の見込み

本学既設学部卒業生の就職状況をみると、直近 5 ヶ年平均の就職率は、92.8%である。また、本学既設学部の中でも社会科学系に近い「国際学部」に限ってみると、5 ヶ年平均の就職率は 95.1%になっており、直近の平成 29 年度卒業生の就職率は 98.4%と、近年の既設学部卒業生の就職状況は安定している。

ビジネス学部でも、既設学部同様に個別面談、自己分析や女性のキャリアデザイ

ン等を支援する進路ガイダンス、SPI 対策や面接・グループディスカッション対策等の講座の配置などきめ細やかなキャリア支援を継続する。

なお、ビジネス学部においては、上記のようなキャリア支援に加えて、経済・経営系の多様な教授陣（実務経験豊富な教員やキャリア・カウンセラーの資格を有している教員等）によるキャリア支援、企業等と連携した PBL（Project Based Learning：課題解決型学習）（以下、PBL という）の手法を取り入れた授業などを通して、学生のキャリア意識を早期の段階から醸成することにより、安定した進路見通しを維持し得ると考える。

【資料 9：既設学部の就職状況】

3. 人材需要に関するアンケート調査

ビジネス学部卒業後の進路見通しについて客観的に把握するため、人材需要、ビジネス学部の教育内容・教育方法についての魅力度、卒業生の採用意向に関してアンケート調査を実施した。

調査の概要は以下の通りである。

調査対象	企業の人事関連業務担当者
調査方法	郵送調査
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ・本社所在地 ・業種 ・従業員数 ・採用したい能力・特性 ・「ビジネス学部ビジネス学科」の特色に対する魅力度 ・「ビジネス学部ビジネス学科」の社会的必要性 ・「ビジネス学部ビジネス学科」卒業生に対する採用意向 ・「ビジネス学部ビジネス学科」卒業生の毎年の採用想定人数
実施時期	平成 30 年 10 月 15 日（月）～11 月 9 日（金）
回収状況	依頼数 1,200 件 回収：303 件（回収率：25.3%）
調査実施機関	株式会社 進研アド

調査対象企業は、過年度に本学既設学部の卒業生の採用実績がある企業を中心に、ビジネス学部卒業生の就職が想定される業種・業態の就職先も加味して選定した。また、本調査においても、ビジネス学部は平成 32（2020）年 4 月の開設を目指して計画中であり、変更があり得る旨を明確にしたうえで、基本情報として学部名称、入学定員、養成する人材像、教育課程の特色、ビジネスの現場を知る先輩からのメッセージ、学生納付金、設置場所（アクセス）を記載した設置構想リーフレットを配付し、ビジネス学部に十分理解をいただいたうえで回答をお願いした。

上記調査の結果、一部の企業を対象に実施したアンケート調査ではあるものの、

「これからの社会にとって必要だと思うか」との質問に対して、96.0% (291 企業) が「必要だと思う」と回答しており、社会的必要性の高さがうかがえる。

さらに、「ビジネス学部の卒業生を採用したいと思うか」との質問に対しては、94.1% (285 企業) が「採用したいと思う」と回答しており、入学定員 150 名を上回る結果となった。また、「採用したいと思う」と回答した企業の「毎年の採用想定人数」の質問に対しては、単純計算（「5 名～9 名」は 5 名、「10 名以上」は 10 名、「人数は未確定」は 0 名で計上）すると合計 585 名程度の回答が確認できる。

この調査結果からみても、ビジネス学部卒業生の社会的需要は高く、卒業後の進路見通しは良好であると考えることができる。

【資料 10：共立女子大学ビジネス学部に関する採用意向調査結果報告書及び設置構想リーフレット【調査実施機関：株式会社進研アド】】

以上

学生の確保の見通し等を記載した書類 添付資料

資料 1 : 東京都の人口予測 (平成 52 (2040) 年まで)

資料 2 : 18 歳人口、大学進学者数の推計について

資料 3 : 全国私立大学地域別の動向 (平成 24 年度～平成 30 年度)

資料 4 : 全国私立大学学部系統別の動向 (平成 24 年度～平成 30 年度)

資料 5 : 東京都内社会科学系学部の入学志願動向

資料 6 : 共立女子大学既設学部の入学志願動向

資料 7 : 共立女子大学「ビジネス学部ビジネス学科」(仮称) 設置に関するニーズ調査

【高校生対象調査】結果報告書及び設置構想リーフレット

【調査実施機関：株式会社進研アド】

資料 8 : 共立女子大学既設学部及び東京都内社会科学系学部の学生納付金

資料 9 : 共立女子大学既設学部の就職状況

資料 10 : 共立女子大学「ビジネス学部ビジネス学科」(仮称) 設置に関するニーズ調査

【企業対象調査】結果報告書及び設置構想リーフレット

【調査実施機関：株式会社進研アド】

東京都の人口予測（平成52（2040）年まで）

1 予測期間

平成 32 (2020)年、平成 37(2025) 年、平成 42(2030) 年、平成 47 (2035)年、平成 52(2040) 年の 5 時点

2 予測対象

東京都及び区市町村ごとの男女別人口

3 予測方法

東京都の総人口については、多地域モデル（ロジャース・モデル）を用いて予測を行った。同モデルは、従来のコーホート分析の考え方を地域間人口移動の次元にまで拡張したもので、コーホート要因法の一つである。

区市町村ごとの人口については、多地域モデルで予測した東京都の総人口に、区市町村ごとの人口割合を乗じて予測した。

●東京都総人口推移

年	人数	増減人数 (対平成27年)	増減率 (対平成27年)
平成27年	13,515,271	—	—
平成32(2020)年	13,849,942	334,671	2.5%
平成37(2025)年	13,979,158	463,887	3.3%
平成42(2030)年	13,938,408	423,137	3.1%
平成47(2035)年	13,754,388	239,117	1.8%
平成52(2040)年	13,458,482	-56,789	-0.4%

●東京都男女別人口推移

年	男性			女性		
	人数	増減人数 (対平成27年)	増減率 (対平成27年)	人数	増減人数 (対平成27年)	増減率 (対平成27年)
平成27年	6,666,690	—	—	6,848,581	—	—
平成32(2020)年	6,804,155	137,465	2.1%	7,045,787	197,206	2.9%
平成37(2025)年	6,848,242	181,552	2.7%	7,130,916	282,335	4.1%
平成42(2030)年	6,811,185	144,495	2.2%	7,127,223	278,642	4.1%
平成47(2035)年	6,704,575	37,885	0.6%	7,049,813	201,232	2.9%
平成52(2040)年	6,543,766	-122,924	-1.8%	6,914,716	66,135	1.0%

出典：東京都総務局統計部 東京都の統計「東京都区市町村別人口の予測」統計資料に基づき作成

資料2

18歳人口、大学進学者数の推計について

1. 【地域ブロック別】18歳人口の推移（H28以降の推計値）

	H27(A)	H45(2033) (B)	増減(C) (B-A)	増減率 (A/C)
北海道	48,922	36,514	-12,408	-25.4%
東北	89,965	64,312	-25,653	-28.5%
北関東	68,342	52,784	-15,558	-22.8%
<u>東京圏</u>	<u>305,067</u>	<u>282,146</u>	<u>-22,921</u>	<u>-7.5%</u>
甲信越静	88,860	67,761	-21,099	-23.7%
北陸	29,886	22,899	-6,987	-23.4%
東海	111,749	93,616	-18,133	-16.2%
近畿	199,788	159,733	-40,055	-20.0%
中国	72,485	60,029	-12,456	-17.2%
四国	37,394	28,901	-8,493	-22.7%
九州	147,519	131,099	-16,420	-11.1%
<u>全国</u>	<u>1,199,977</u>	<u>999,794</u>	<u>-200,183</u>	<u>-16.7%</u>

2. 【試算①】2033（平成45）年の各年の大学進学率が、各県で2015（平成27）年の大学進学率と同率であると仮定した場合

	H27(A)	H45(2033) (B)	増減(C) (B-A)	増減率 (A/C)
北海道	20,339	15,180	-5,159	-25.4%
東北	35,415	25,544	-9,871	-27.9%
北関東	33,367	25,796	-7,571	-22.7%
<u>東京圏</u>	<u>182,434</u>	<u>173,153</u>	<u>-9,281</u>	<u>-5.1%</u>
甲信越静	41,028	31,356	-9,672	-23.6%
北陸	13,936	10,690	-3,246	-23.3%
東海	55,562	46,752	-8,810	-15.9%
近畿	110,340	88,287	-22,053	-20.0%
中国	33,395	27,733	-5,662	-17.0%
四国	16,613	12,872	-3,741	-22.5%
九州	60,047	53,657	-6,390	-10.6%
<u>全国</u>	<u>602,476</u>	<u>511,020</u>	<u>-91,456</u>	<u>-15.2%</u>

3. 【試算②】 2033（平成45）年の各年の大学進学率が、各県で2015（平成27）年の大学進学希望率（志願率）と同率であると仮定した場合

	H27 (A)	H45 (2033) (B)	増減 (C) (B-A)	増減率 (A/C)
北海道	20,339	15,905	-4,434	-21.8%
東北	35,415	27,723	-7,692	-21.7%
北関東	33,367	26,908	-6,459	-19.4%
東京圏	<u>182,434</u>	<u>194,290</u>	<u>11,856</u>	<u>6.5%</u>
甲信越静	41,028	33,866	-7,162	-17.5%
北陸	13,936	11,759	-2,177	-15.6%
東海	55,562	50,792	-4,770	-8.6%
近畿	110,340	99,092	-11,248	-10.2%
中国	33,395	30,456	-2,939	-8.8%
四国	16,613	14,231	-2,382	-14.3%
九州	60,047	61,469	1,422	2.4%
全国	<u>602,476</u>	<u>566,491</u>	<u>-35,985</u>	<u>-6.0%</u>

4. 【試算③】 2033（平成45）年までの各年の大学進学者数が、各県で2015（平成27）年の大学進学者数と同数であると仮定した場合

	H27 大・短進学率	H45 (2033) 大・短進学率
北海道	41.6%	55.7%
東北	39.7%	55.1%
北関東	48.9%	63.2%
東京圏	<u>61.4%</u>	<u>64.7%</u>
甲信越静	46.3%	60.5%
北陸	46.7%	60.9%
東海	49.9%	59.4%
近畿	55.3%	69.1%
中国	46.2%	55.6%
四国	44.5%	57.5%
九州	40.9%	45.8%

・文部科学省「学校基本統計」及び厚生労働省「人口動態調査」より国立教育政策研究所にて推計

※「外国の学校卒」「高卒認定」等の進学者を除く

出典：中央教育審議会：将来構想部会（第9期）（第3回）

参考資料1 高等教育の将来構想に関する参考資料2/2（PDF:4281KB）

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/042/siryo/_icsFiles/afielddfile/2017/08/01/1388715_09.pdf

※本学にて一部加工（上記網掛け箇所）

全国私立大学地域別の入学志願動向(平成24年度～平成30年度)

地域	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
東京都	集計学校数	112	111	113	113	113	113	114	
	入学定員 A	162,757	164,704	166,865	168,390	170,553	175,024	179,549	
	志願者 B	1,585,103	1,623,438	1,625,447	1,632,817	1,680,215	1,803,679	1,941,659	
	受験者 C	1,507,557	1,547,487	1,545,035	1,552,758	1,603,723	1,723,542	1,855,286	
	合格者 D	444,266	452,373	474,987	492,515	492,001	481,265	462,130	
	入学者 E	180,425	181,824	182,764	185,187	185,914	187,859	186,116	
	志願倍率 B/A	9.74	9.86	9.74	9.70	9.85	10.31	10.81	10.00
	合格率 D/C	29.47%	29.23%	30.74%	31.72%	30.68%	27.92%	24.91%	
	歩留率 E/D	40.61%	40.19%	38.48%	37.60%	37.79%	39.03%	40.27%	
	入学定員充足率 E/A	110.86%	110.39%	109.53%	109.98%	109.01%	107.33%	103.66%	108.68%

地域	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
全国	集計学校数	577	576	578	579	577	581	582	
	入学定員 A	455,790	458,456	460,251	463,697	467,525	477,667	484,986	
	志願者 B	3,198,325	3,390,069	3,464,429	3,513,499	3,629,277	3,882,573	4,158,495	
	受験者 C	3,074,755	3,266,422	3,329,844	3,376,430	3,489,798	3,732,228	3,999,532	
	合格者 D	1,117,800	1,147,178	1,195,744	1,241,262	1,245,863	1,238,199	1,211,499	
	入学者 E	474,892	483,957	477,631	487,064	488,209	499,678	497,773	
	志願倍率 B/A	7.02	7.39	7.53	7.58	7.76	8.13	8.57	7.71
	合格率 D/C	36.35%	35.12%	35.91%	36.76%	35.70%	33.18%	30.29%	
	歩留率 E/D	42.48%	42.19%	39.94%	39.24%	39.19%	40.36%	41.09%	
	入学定員充足率 E/A	104.19%	105.56%	103.78%	105.04%	104.42%	104.61%	102.64%	104.32%

●地域別入学定員充足状況

(%)

地域	平成26年度 入学定員充足率	平成27年度 入学定員充足率	平成28年度 入学定員充足率	平成29年度 入学定員充足率	平成30年度 入学定員充足率	平均
北海道	95.39	96.70	96.98	98.65	98.74	97.29
東北(宮城を除く)	81.86	84.96	88.60	93.51	93.25	88.44
宮城	103.48	101.75	101.75	104.43	103.98	103.08
北関東	97.52	101.42	98.08	102.32	104.45	100.76
埼玉	103.93	104.6	102.01	103.28	105.25	103.81
千葉	95.90	98.26	99.35	101.62	103.21	99.67
東京	109.53	109.98	109.01	107.33	103.66	107.90
神奈川	104.79	104.89	104.05	105.46	104.10	104.66
甲信越	93.22	100.97	97.93	97.17	97.25	97.31
北陸	102.66	102.22	100.57	102.16	103.28	102.18
東海(愛知を除く)	95.84	96.13	95.11	98.65	102.02	97.55
愛知	103.53	106.17	104.86	105.60	103.87	104.81
近畿(京都、大阪、兵庫を除く)	91.60	97.68	98.66	104.36	110.65	100.59
京都	105.28	106.34	105.39	103.33	97.74	103.62
大阪	105.15	107.68	106.47	107.10	104.51	106.18
兵庫	98.81	99.70	101.18	104.11	101.75	101.11
中国(広島を除く)	94.06	99.09	96.53	94.39	93.90	95.59
広島	92.44	94.32	95.09	96.64	99.22	95.54
四国	90.47	88.62	88.47	91.89	88.64	89.62
九州(福岡を除く)	93.93	95.21	96.67	95.95	99.31	96.21
福岡	100.81	101.19	103.71	107.10	105.67	103.70
全国	103.78	105.04	104.42	104.61	102.64	104.10

出典:「私立大学・短期大学等入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団)に基づき作成

全国私立大学学部系統別の入学志願動向(平成24年度～平成30年度)

分野	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
社会科学系	学部数	510	507	505	509	510	515	513	-
	入学定員	168,952	167,324	165,517	165,244	165,013	168,025	169,202	-
	志願者	1,133,175	1,156,547	1,146,575	1,182,405	1,264,473	1,421,465	1,557,832	-
	志願倍率	6.7	6.9	6.9	7.2	7.7	8.5	9.2	7.5
	入学者	172,115	171,992	168,524	173,373	174,373	179,664	176,801	-
	入学定員充足率(%)	101.87	102.79	101.82	104.92	105.61	106.93	104.49	104.2

学部等名	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
経済学部	学部数	94	93	94	94	94	92	91	-
	入学定員	41,413	41,275	40,343	39,868	39,505	39,406	40,016	-
	志願者	300,762	293,774	301,231	312,763	325,308	374,884	412,231	-
	志願倍率	7.3	7.1	7.5	7.8	8.2	9.5	10.3	8.2
	入学者	42,228	42,435	41,104	42,264	42,338	43,079	41,707	-
	入学定員充足率(%)	101.97	102.81	101.89	106.01	107.17	109.32	104.23	105.1

学部等名	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
経営学部	学部数	79	79	82	81	82	82	80	-
	入学定員	24,035	24,165	25,083	24,708	25,244	25,796	25,431	-
	志願者	170,465	188,060	188,841	193,204	212,639	239,665	268,888	-
	志願倍率	7.1	7.8	7.5	7.8	8.4	9.3	10.6	8.3
	入学者	24,419	25,189	25,498	25,687	26,598	27,888	27,037	-
	入学定員充足率(%)	101.60	104.24	101.65	103.96	105.36	108.11	106.32	104.5

学部等名	項目	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	平均
商学部	学部数	30	30	31	31	31	31	30	-
	入学定員	14,581	14,456	14,606	14,656	14,561	14,529	14,598	-
	志願者	114,532	114,926	107,856	110,305	117,010	124,724	132,345	-
	志願倍率	7.9	8.0	7.4	7.5	8.0	8.6	9.1	8.1
	入学者	15,491	15,511	15,109	15,427	15,344	15,363	15,537	-
	入学定員充足率(%)	106.24	107.30	103.44	105.26	105.38	105.74	106.43	106.4

出典:「私立大学・短期大学等入学志願動向」(日本私立学校振興・共済事業団)

東京都内社会科学系学部の入学志願動向

大学名	学部(学科名)	2016(平成28)年度							2017(平成29)年度							2018(平成30)年度							
		入学定員	一般入試 志願者数	一般入試 合格者数	入学者数	一般入試 志願倍率	一般入試 合格倍率	入学定員充 足率	入学定員	一般入試 志願者数	一般入試 合格者数	入学者数	一般入試 志願倍率	一般入試 合格倍率	入学定員充 足率	入学定員	一般入試 志願者数	一般入試 合格者数	入学者数	一般入試 志願倍率	一般入試 合格倍率	入学定員充 足率	
		A	B	C	D	B/A	B/C	D/A	E	F	G	H	F/E	F/G	H/E	I	J	K	L	H/A	H/I	L/I	
1	津田塾	総合政策	—	—	—	—	—	—	110	2,108	512	162	19.16	4.12	1.47	110	1,306	267	105	11.87	4.89	0.95	
2	昭和女子	グローバルビジネス	100	1,102	339	112	11.02	3.25	1.12	120	1,076	267	125	8.97	4.03	1.04	170	1,628	251	178	9.58	6.49	1.04
3	日本女子	人間社会	440	3,672	1,632	510	8.35	2.25	1.15	440	3,530	1,408	508	8.02	2.51	1.15	485	3,397	1,349	529	7.00	2.52	1.09
4	大妻女子	社会情報	300	1,406	610	369	4.69	2.30	1.23	300	2,201	174	344	7.34	12.65	1.14	300	1,180	420	367	3.93	2.81	1.22
5	実践女子	人間社会	200	1,317	625	314	6.59	2.11	1.57	200	1,840	518	234	9.20	3.55	1.17	200	1,878	324	256	9.39	5.80	1.28
		小計①(1~5)	1,040	7,497	3,206	1,305	7.21	2.34	1.25	1,170	10,755	2,879	1,373	9.19	3.74	1.17	1,265	9,389	2,611	1,435	7.42	3.60	1.13
6	東洋	経済	616	9,916	2,237	687	16.10	4.43	1.11	616	12,170	2,524	739	19.76	4.82	1.19	616	9,974	933	660	16.19	10.69	1.07
7	東洋	経営	682	12,053	2,435	793	17.67	4.95	1.16	682	13,306	2,357	716	19.51	5.65	1.04	682	10,793	1,326	724	15.83	8.14	1.06
8	武蔵野	経済	300	3,093	583	339	10.31	5.31	1.13	300	2,843	658	318	9.48	4.32	1.06	505	5,653	1,032	469	11.19	5.48	0.92
9	専修	経済	695	7,103	2,041	816	10.22	3.48	1.17	695	8,319	1,948	788	11.97	4.27	1.13	695	7,917	1,470	747	11.39	5.39	1.07
10	専修	経営	542	4,747	1,318	642	8.76	3.60	1.18	542	6,385	1,191	619	11.78	5.36	1.14	542	5,451	877	562	10.06	6.22	1.03
11	専修	商	675	4,269	1,204	763	6.32	3.55	1.13	675	5,899	1,259	779	8.74	4.69	1.15	675	6,518	1,125	713	9.66	5.79	1.05
12	駒澤	経済	748	9,240	2,276	820	12.35	4.06	1.09	748	11,166	2,296	841	14.93	4.86	1.12	748	12,756	1,937	810	17.05	6.59	1.08
13	駒澤	経営	525	6,130	1,558	600	11.68	3.93	1.14	525	7,287	1,518	577	13.88	4.80	1.09	525	6,944	1,203	557	13.23	5.77	1.06
14	立正	経済	360	1,481	538	406	4.11	2.75	1.12	360	2,553	388	393	7.09	6.58	1.09	400	2,284	306	377	5.71	7.46	0.94
15	立正	経営	300	1,610	538	335	5.37	2.99	1.11	300	2,096	484	348	6.99	4.33	1.16	330	1,872	313	302	5.67	5.98	0.91
16	亜細亜	経済	250	1,943	498	310	7.77	3.90	1.24	250	2,325	295	283	9.30	7.88	1.13	250	2,229	312	274	8.92	7.14	1.09
17	亜細亜	経営	490	3,947	929	573	8.06	4.25	1.16	490	3,654	765	566	7.46	4.78	1.15	490	4,119	780	534	8.41	5.28	1.08
18	創価	経済	200	1,244	340	205	6.22	3.66	1.02	200	1,283	360	212	6.42	3.56	1.06	190	1,015	303	203	5.34	3.35	1.06
19	創価	経営	200	1,499	406	222	7.50	3.69	1.11	200	1,390	356	215	6.95	3.90	1.07	190	1,141	191	199	6.01	5.97	1.04
20	東海	政治経済	450	3,223	791	502	7.16	4.07	1.11	450	3,703	668	483	8.23	5.54	1.07	480	4,392	749	484	9.15	5.86	1.00
21	東京経済	経済	455	4,259	1,320	515	9.36	3.23	1.13	530	5,322	1,057	583	10.04	5.04	1.10	530	5,298	771	576	10.00	6.87	1.08
22	東京経済	経営	485	4,325	1,076	553	8.92	4.02	1.14	565	4,265	941	581	7.55	4.53	1.02	565	5,157	754	598	9.13	6.84	1.05
		小計②(6~22)	7,973	80,082	20,088	9,081	10.04	3.99	1.13	8,128	93,966	19,065	9,041	11.56	4.93	1.11	8,413	93,513	14,382	8,799	11.12	6.50	1.04
		総計	9,013	87,579	23,294	10,386	9.72	3.76	1.15	9,298	104,721	21,944	10,414	11.26	4.77	1.12	9,678	102,902	16,993	10,224	10.63	6.06	1.05

女子大学平均	志願倍率	7.94	合格倍率	3.22	入学定員充足率	1.18
全体平均	志願倍率	10.54	合格倍率	4.86	入学定員充足率	1.10

出典：大学受験パスナビ(旺文社)：<https://passnavi.evidus.com/>
各大学ホームページ
都内大学入試結果(大学通信：Campus Navi Perfect)

資料6

共立女子大学既設学部の入志願動向

家政学部（入学定員：445名、収容定員：1,780名）

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ志願者数	1,473	2,157	2,464	2,630	2,855
実志願者数	1,187	1,553	1,780	1,793	1,935
（併願者数）	101	229	218	283	293
延べ受験者数	1,396	2,092	2,356	2,541	2,767
実受験者数	1,115	1,507	1,706	1,695	1,850
（併願者数）	92	225	210	265	277
延べ合格者数	775	890	952	941	732
実合格者数	667	766	807	776	640
（併願者数）	36	59	53	60	43
入学者数	414	451	496	461	396
実志願倍率	2.67	3.49	4.00	4.03	4.35
実合格倍率	1.67	1.97	2.11	2.18	2.89
定員充足率	1.10	1.06	1.16	1.08	0.88

文芸学部（入学定員：350名、収容定員：1,400名）

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ志願者数	1,216	1,507	1,480	1,690	1,834
実志願者数	1,029	1,259	1,273	1,437	1,523
（併願者数）	168	283	298	365	378
延べ受験者数	1,140	1,435	1,425	1,611	1,754
実受験者数	956	1,203	1,200	1,339	1,429
（併願者数）	150	268	290	337	350
延べ合格者数	817	926	932	893	758
実合格者数	760	862	844	828	704
（併願者数）	99	156	142	140	102
入学者数	362	369	402	390	328
実志願倍率	2.94	3.60	3.64	4.11	4.35
実合格倍率	1.26	1.40	1.42	1.62	2.03
定員充足率	1.03	1.05	1.14	1.11	0.93

国際学部（入学定員：250名、収容定員：1,000名）

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ志願者数	1,031	1,145	1,038	1,643	1,850
実志願者数	894	983	931	1,370	1,535
（併願者数）	142	221	169	302	276
延べ受験者数	979	1,096	981	1,566	1,762
実受験者数	844	938	871	1,283	1,444
（併願者数）	130	206	161	275	262
延べ合格者数	575	680	684	791	486
実合格者数	530	633	631	719	468
（併願者数）	65	91	85	88	35
入学者数	276	273	288	321	236
実志願倍率	3.58	3.93	3.72	5.48	6.14
実合格倍率	1.59	1.48	1.38	1.78	3.09
定員充足率	1.10	1.09	1.15	1.28	0.94

看護学部（入学定員：100名、収容定員：400名）

項目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
延べ志願者数	640	450	654	671	632
実志願者数	532	380	478	503	499
（併願者数）	22	15	38	32	49
延べ受験者数	597	433	631	646	607
実受験者数	489	365	457	481	476
（併願者数）	21	15	37	30	46
延べ合格者数	205	260	257	280	241
実合格者数	190	230	229	245	222
（併願者数）	2	6	8	14	10
入学者数	100	106	103	102	100
実志願倍率	5.32	3.80	4.78	5.03	4.99
実合格倍率	2.57	1.59	2.00	1.96	2.14
定員充足率	1.00	1.06	1.03	1.02	1.00

算出方法

実数 = 受験方式や日程等による重複を除いた実人数

併願者数 = 実数のうち、他学部・科と併願している実数

共立女子大学
「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
【高校生対象調査】
結果報告書

平成31年1月
株式会社 進研アド

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2020年4月に開設予定の共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」の新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生女子
調査エリア		北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校)	4,866 (31校)
	回収数 (回収率)	3,552 (29校) (73.0%)
調査時期		2018年10月15日(月)～2018年11月14日(水)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
・性別 ・高校種別 ・高校所在地 ・高校卒業後の希望進路 ・身につけたい能力・特性 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」への入学意向

高校生対象 調査概要

4. 調査対象校(依頼校)

札幌新陽高等学校
山村学園高等学校
星野高等学校
千葉県立千葉女子高等学校
千葉県立葉園台高等学校
千葉市立千葉高等学校
千葉県立千城台高等学校
千葉敬愛高等学校
麗澤高等学校
敬愛学園高等学校
八千代松陰高等学校
流通経済大学付属柏高等学校
共立女子高等学校
桐朋女子高等学校
品川女子学院高等部
朋優学院高等学校
日本大学第二高等学校
淑徳巣鴨高等学校
淑徳高等学校
共立女子第二高等学校
拓殖大学第一高等学校
横浜市立桜丘高等学校
横浜市立金沢高等学校
川崎市立橘高等学校
神奈川学園高等学校
捜真女学校高等学部
聖ヨゼフ学園高等学校
桐蔭学園高等学校
横須賀学院高等学校
横浜隼人高等学校
静岡市立清水桜が丘高等学校

計31校

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※ 本調査は、共立女子大学が新たに設置予定の「ビジネス学部 ビジネス学科」に対する需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、共立女子大学の主な学生募集エリアである東京都をはじめ、北海道、埼玉県、千葉県、神奈川県、静岡県に所在する高校の高校2年生女子（設置年度に入学対象の学年）に調査を実施し、3,552人から回答を得た。

- 回答者の性別は、「女性」が100.0%。
- 回答者の在籍高校種別は、「私立」が70.7%、「公立」が29.3%。
- 回答者の在籍高校所在地は、共立女子大学の学生募集の中心である「東京都」が37.7%で最も多い。次いで、「千葉県」(27.2%)、「神奈川県」(24.4%)と続く。

高校卒業後の希望進路や身につけたい能力・特性

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「私立大学に進学」が81.4%で最も高い。次いで、「国公立大学に進学」が23.5%と続く。
- 回答者の身につけたい能力・特性は、「基礎学力(一般常識)」が62.7%で最も高い。次いで、「専門的な知識・技能」(52.8%)、「実行力(目的を設定し確実に行動する力)」(48.5%)、「発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)」(43.3%)と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度(※)は、5項目中3項目で7割を超える。中でも、「入学から卒業までの充実したキャリア形成支援」に対する魅力度は77.3%で、特色5項目中最も高い。
- 次いで、「組織やチームの中で他者と協働し、課題解決に導くためのリーダーシップ開発」が73.1%、「充実した教員組織(企業や金融機関等出身の実務家教員、キャリアコンサルタント資格保有者、会計士・税理士資格保有者、MBA課程教育経験者、教育研究業績の豊富な研究者)」が71.5%と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向・入学意向

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」を「受験したいと思う」と答えた人は16.9% (599人)である。
- 「ビジネス学部 ビジネス学科」を「受験したいと思う」と答えた599人のうち、「入学したいと思う」と答えた人は83.0% (497人)で、予定している入学定員(150人)の3倍以上である。

高校生対象 調査結果まとめ

受験意向別入学意向 属性別傾向

◇高校所在地別

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と答えた人(以降下線部を本頁内では「入学意向者」と表す)を高校所在地別で見ると、学生募集の中心である「東京都」の高校在籍者からの入学意向者は18.1% (**242人**)であり、予定している入学定員(150人)を上回っている。

◇高校卒業後の希望進路別

- 「共立女子大学」を受験・入学する可能性が高い「私立大学に進学」希望者からの入学意向者は15.4% (**445人**)と、予定している入学定員(150人)の2倍以上である。

◇身につけたい能力・特性別

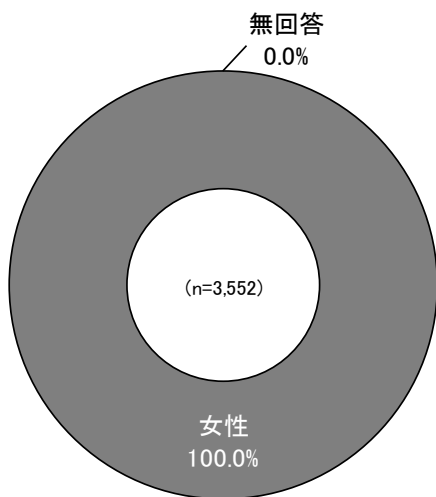
- 「基礎学力(一般常識)」と答えた人からの入学意向者は14.9% (**332人**)と、予定している入学定員(150人)の2倍以上である。そのほか、「実行力(目的を設定し確実に行動する力)」と答えた人では15.6% (**269人**)、「発信力(自分の意見をわかりやすく伝える力)」と答えた人では16.6% (**256人**)と、いずれも予定している入学定員(150人)を上回る。

高校生対象 調査結果

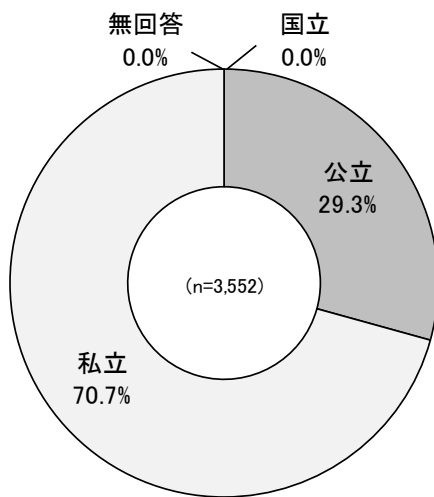


回答者の属性(性別/高校種別/高校所在地)

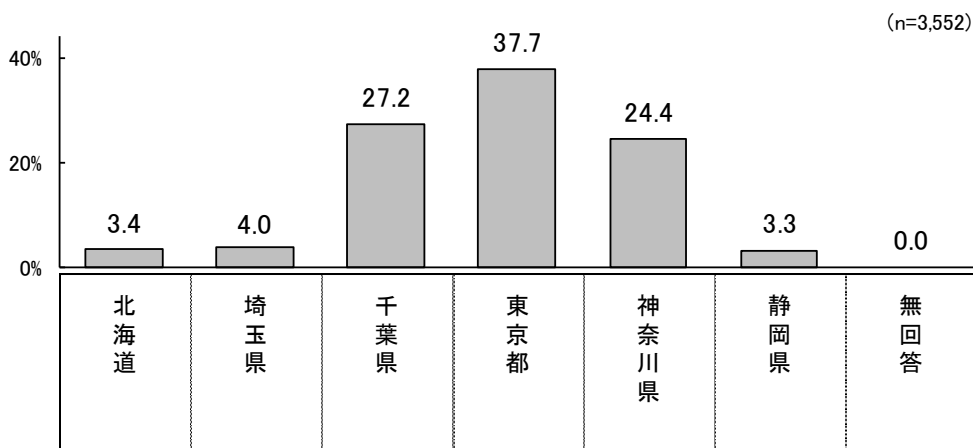
■性別



■高校種別



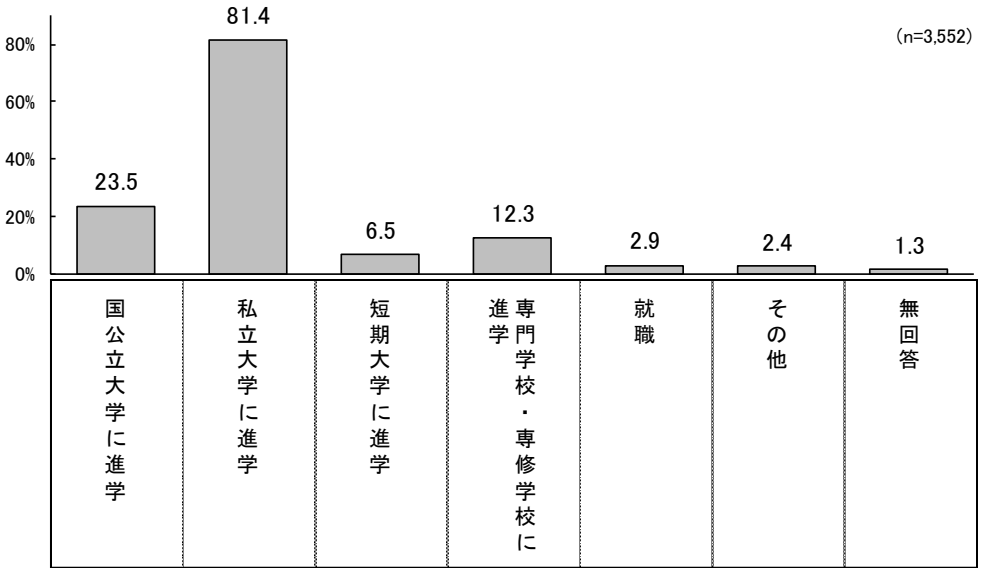
■高校所在地



高校卒業後の希望進路／身につけたい能力・特性

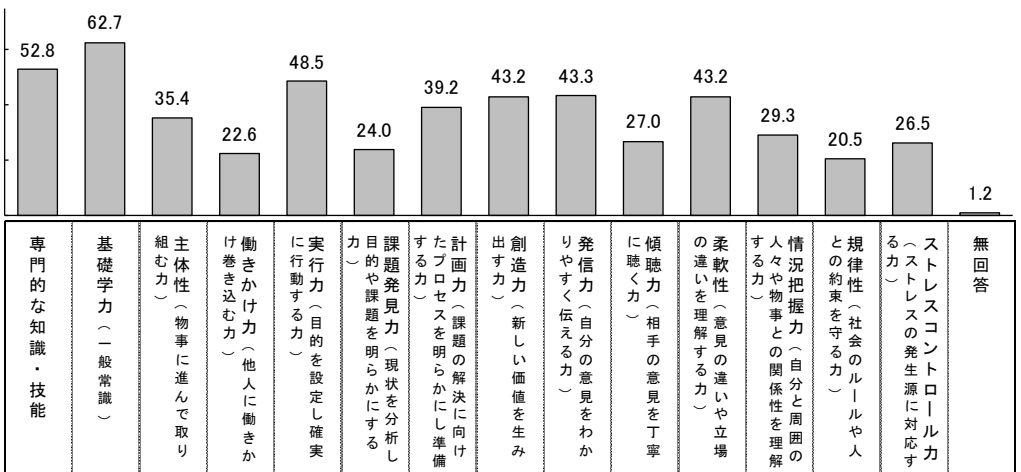
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)



■身につけたい能力・特性

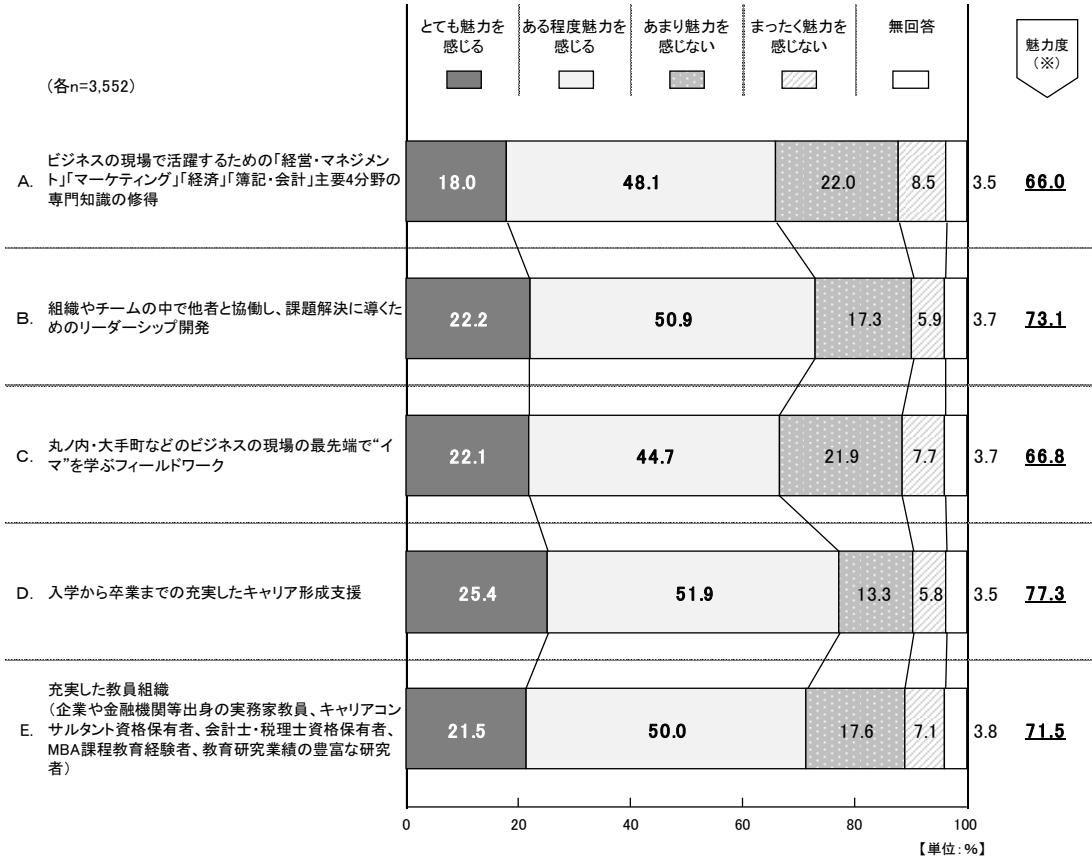
Q2. あなたは、今後どのような能力・特性を身につけたいと考えていますか。
以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)



「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

■「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

Q3. 共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)



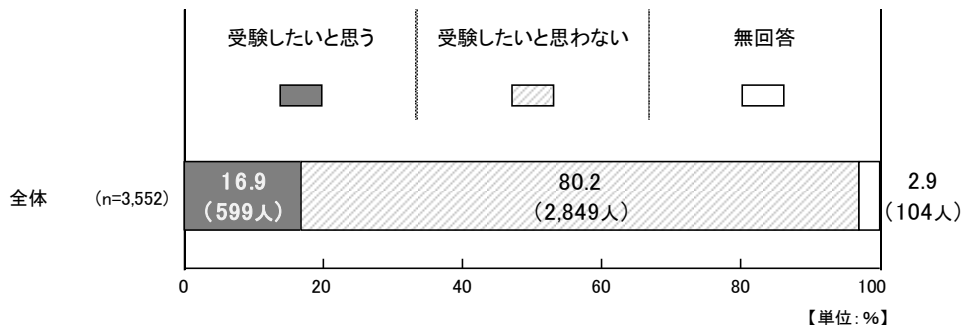
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向／入学意向

■「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向

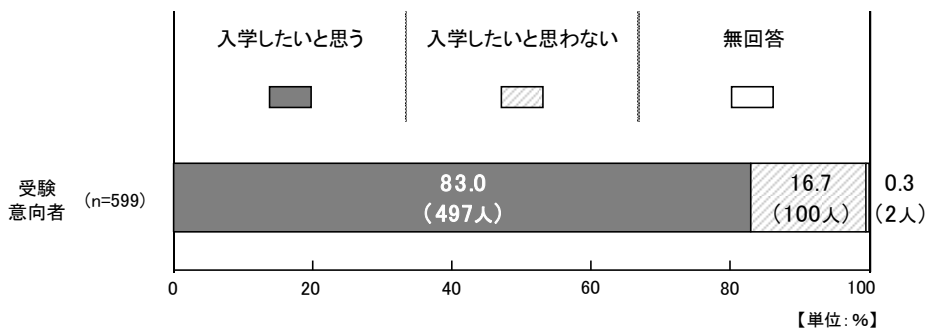
Q4. あなたは、共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた599人のみ抽出

■「ビジネス学部 ビジネス学科」への入学意向

Q5. あなたは共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

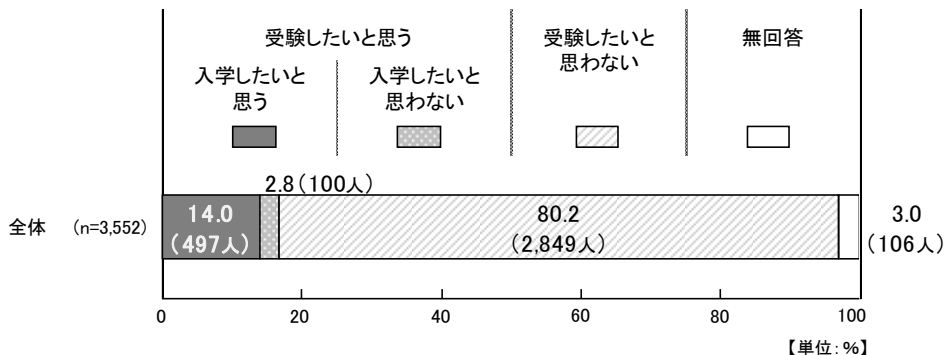


※ Q4で「受験したいと思う」と答えた599人の回答



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

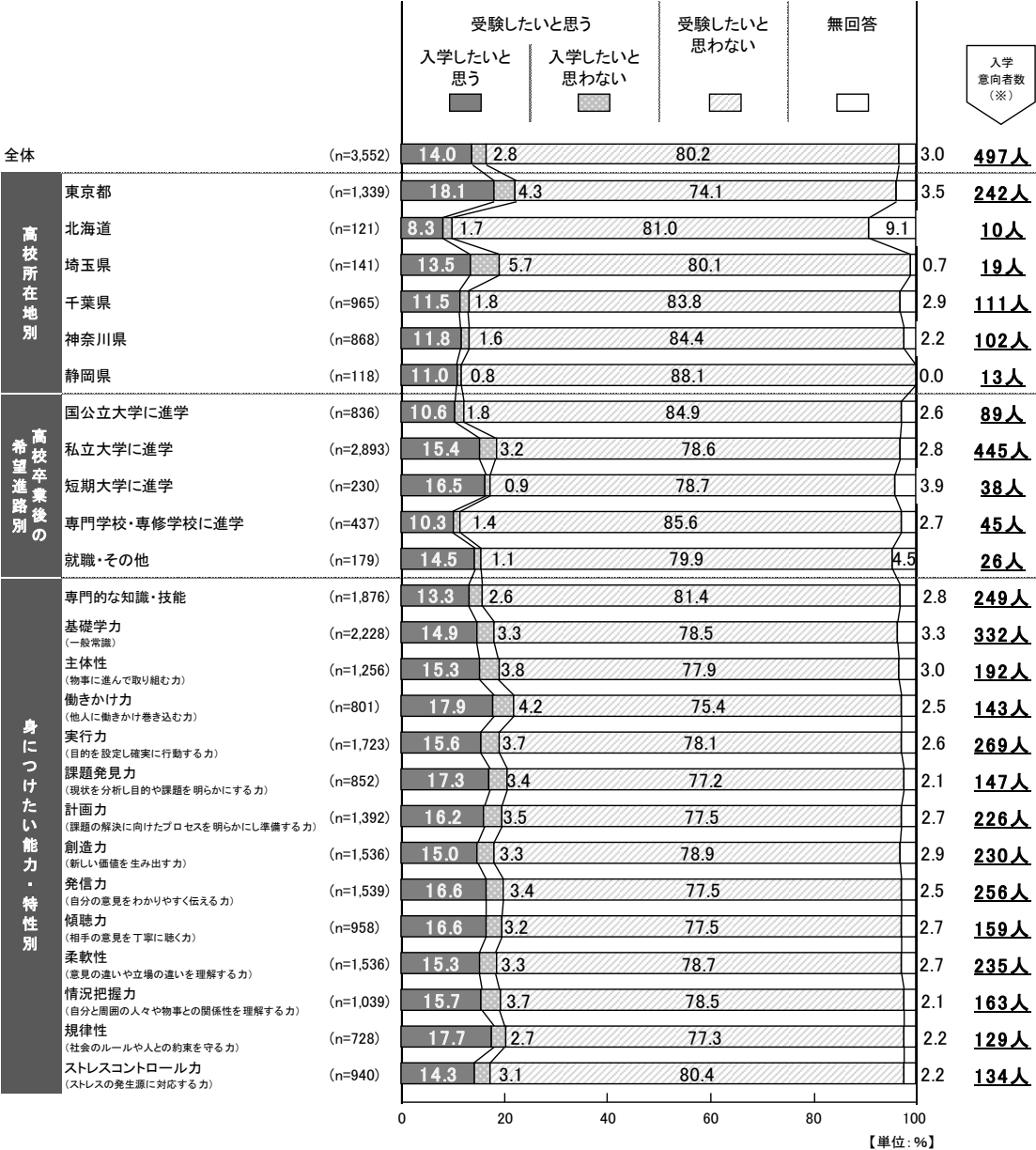
■「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向別入学意向



<属性別>

■「ビジネス学部 ビジネス学科」への受験意向別入学意向

<属性別>



※入学意向者数=「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

卷末資料 調查票



高校生対象 調査票

18015

No.

※ 上記の枠内には何も記入しないでください。

共立女子大学 ビジネス学部 ビジネス学科 (仮称、設置構想中)に関するアンケート

＜アンケート協力をお願いします＞

共立女子大学は、「ビジネス学部 ビジネス学科(仮称)」を2020年4月の開設を目指し、検討を進めています。このアンケートは高校生の皆さんからご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。
なお、このアンケートは無記名式で実施し、全て統計的に処理します。回答者個人が特定されることは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

※このアンケートと同封した資料に記載されている「ビジネス学部ビジネス学科(仮称)」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる場合があります。

記入の方法

1. 回答は、あてはまる項目の□枠に✓をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので、汚さないようにしてください。
3. 記入にあたっては、必ず鉛筆またはシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 質問により、1つだけ答えるものと、複数答えるものがあります。
5. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

【記入例】

Q. あなたは、どのような学問に興味がありますか。(いくつでも)

- | | | | | | | | |
|-----------|--|--|------------------------------|-----------|--|--|------------------------------|
| 良い
記入例 | <input checked="" type="checkbox"/> 文学 | <input type="checkbox"/> 法学 | <input type="checkbox"/> 社会学 | 悪い
記入例 | <input checked="" type="checkbox"/> 文学 | <input type="checkbox"/> 法学 | <input type="checkbox"/> 社会学 |
| | <input type="checkbox"/> 語学 | <input checked="" type="checkbox"/> 国際関係 | | | <input checked="" type="checkbox"/> 語学 | <input checked="" type="checkbox"/> 国際関係 | |

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

性別	<input type="checkbox"/> 女性	学年	<input type="checkbox"/> 高校2年生	※ 本アンケートは高校2年生の女子を対象としています。
在籍している 高校名	高校所在地 []		<input type="checkbox"/> 都	<input type="checkbox"/> 道
	<input type="checkbox"/> 府	<input type="checkbox"/> 県 (←1つだけ)		
	<input type="checkbox"/> 国立	<input type="checkbox"/> 公立	<input type="checkbox"/> 私立 (←1つだけ)	[] 高等学校

◆高校卒業後の進路や、身につけたい力についてお聞きします。

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)

- | | | |
|-----------------------------------|---------------------------------------|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 国公立大学に進学 | <input type="checkbox"/> 短期大学に進学 | <input type="checkbox"/> 就職 |
| <input type="checkbox"/> 私立大学に進学 | <input type="checkbox"/> 専門学校・専修学校に進学 | <input type="checkbox"/> その他 |

Q2. あなたは、今後どのような能力・特性を身につけたいと考えていますか。

以下の項目から、あてはまるものすべてをお選びください。(いくつでも)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 専門的な知識・技能 | <input type="checkbox"/> 創造力 (新しい価値を生み出す力) |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力 (一般常識) | <input type="checkbox"/> 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力) |
| <input type="checkbox"/> 主体性 (物事に進んで取り組む力) | <input type="checkbox"/> 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力) |
| <input type="checkbox"/> 働きかけ力 (他人に働きかけ巻き込む力) | <input type="checkbox"/> 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力) |
| <input type="checkbox"/> 実行力 (目的を設定し確実に行動する力) | <input type="checkbox"/> 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力) |
| <input type="checkbox"/> 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力) | <input type="checkbox"/> 規律性 (社会のルールや人との約束を守る力) |
| <input type="checkbox"/> 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力) | <input type="checkbox"/> ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力) |

裏面へ続く→

高校生対象 調査票

18016

◆共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)についてお聞きします。

共立女子大学では、現在高校2年生のみなさんが大学生となる2020年4月に、新しく「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称)を設置することを構想しています。

※ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください ※

Q3. 共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ <input type="checkbox"/>	→ <input checked="" type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
A.	ビジネスの現場で活躍するための「経営・マネジメント」「マーケティング」「経済」「簿記・会計」主要4分野の専門知識の修得	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
B.	組織やチームの中で他者と協働し、課題解決に導くためのリーダーシップ開発	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
C.	丸の内・大手町などのビジネスの現場の最先端で“イマ”を学ぶフィールドワーク	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
D.	入学から卒業までの充実したキャリア形成支援	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>
E.	充実した教員組織 (企業や金融機関等出身の実務家教員、キャリアコンサルタント資格保有者、会計士・税理士資格保有者、MBA課程教育経験者、教育研究業績の豊富な研究者)	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>	→ <input type="checkbox"/>

Q4. あなたは、共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 受験したいと思う 受験したいと思わない

Q5. あなたは共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を受験して合格したら、入学したいと思いますか。あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

- 入学したいと思う 入学したいと思わない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

女性のキャリアを、次の時代へ。

将来の労働人口減少を課題ととらえ、生産性向上、イノベーション、働き方改革など社会が大きく変化していく中で、国や企業は、労働市場での女性活躍、リーダーシップに期待を寄せています。「女性の自立と自活」を建学の精神とする本学は、こうした今のビジネス界において自分らしい生き方を実現しながら、社会が求める役割を果たす能力を養成するため、「ビジネス学部（仮称）」の設置を構想しています。「ビジネスの場に必要な知識と、創造力や協働力などのスキルを、4年間でステップアップしながら着実に身につけられる学修とキャリア形成の教育を目指します。

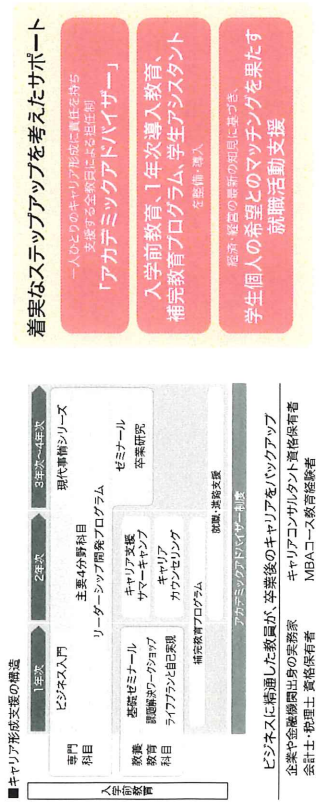
ビジネスの場に必要不可欠な知識を修得 主要4分野の専門知識

「経営・マネジメント」「マーケティング」「簿記・会計」の主要4分野を学修。さらに「法律」「情報・統計」「英語」などの広範のビジネスの現場で生きるスキルと合わせて総合的な専門性を培ったビジネスパーソンへ。



学修習熟度、就職活動までサポートする キャリア形成支援

知識やスキルが段階的に身につくカリキュラム編成を基盤にし、大学生活の基盤にし、大学生活の基盤にし、卒業後のキャリアをバックアップ。また経済・経営の専門的な知見に基づき就職活動支援まで、君をサポート体制を築きます。



エンジネスアストにおける社会の変化

少子高齢化 労働人口の減少
第4次産業革命
(IoT, ビッグデータ, AI)
生産性向上, イノベーション
女性の活躍が鍵になる

知識を「使える」状態に。実践力とリーダーシップを養成 リーダーシップ開発プログラム (LDP)

時には先頭に立ち、時には周囲を支え鼓舞する。今、企業が求めるのは、プロジェクトの中で自ら主体的に動き、周囲や他者を支援する「世界標準のリーダーシップ」です。学修知識と連結し、実践的な業務能力と推進する能力を養成する演習科目を導入します。



ビジネスの最先端、現場を吸収する フィールドワーク

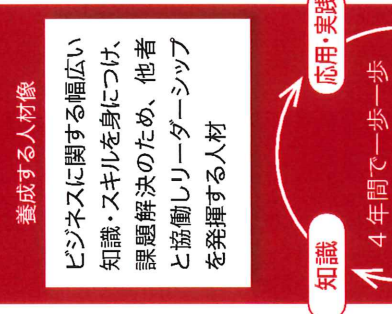
日本の金融・経済の拠点ともいえる丸の内、大塚町の徒歩圏内にキャンパスがある立地を活かして、さまざまな企業や公的施設を訪問し、ビジネスの最新動向を体験する授業を展開します。



将来の労働人口減少を課題ととらえ、生産性向上、イノベーション、働き方改革など社会が大きく変化していく中で、国や企業は、労働市場での女性活躍、リーダーシップに期待を寄せています。「女性の自立と自活」を建学の精神とする本学は、こうした今のビジネス界において自分らしい生き方を実現しながら、社会が求める役割を果たす能力を養成するため、「ビジネス学部（仮称）」の設置を構想しています。「ビジネスの場に必要な知識と、創造力や協働力などのスキルを、4年間でステップアップしながら着実に身につけられる学修とキャリア形成の教育を目指します。

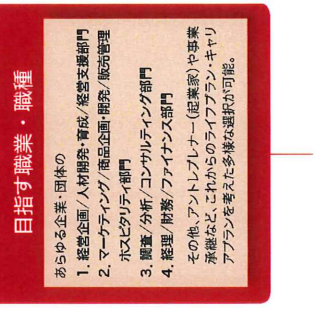
ビジネス学部

養成する人材像
ビジネスに関する幅広い知識・スキルを身につけ、課題解決のため、他者と協働しリーダーシップを発揮する人材



フィールドワーク

日本の金融・経済の拠点ともいえる丸の内、大塚町の徒歩圏内にキャンパスがある立地を活かして、さまざまな企業や公的施設を訪問し、ビジネスの最新動向を体験する授業を展開します。



※設置構想中のため、掲載の内容は予定であり、変更になる場合がございます。

共立女子大学既設学部及び東京都内社会科学系学部の学生納付金

資料 8

(単位：円)

大学名	学部(学科名)	入学金	授業料 (1年分)	施設費・教育充実費・ 研究資料費等	実習費	諸会費	その他	初年次納入額	4年間納入額	備考
1	津田塾	総合政策	200,000	800,000	280,000			1,280,000	4,520,000	他に保険料4,010円(2016年度実績)、同窓会費50,000円が必要。大学指定のノートパソコンが必要(約18万円)
2	昭和女子	グローバルビジネス	200,000	845,600	260,000	50,000	82,400	1,438,000	5,152,000	諸会費には厚生文化費を含む。資格に関する実習費は別途徴収する場合がある
3	日本女子	人間社会	200,000	700,000	290,000		83,860	1,273,860	4,495,440	他に実験実習料(教育学科7,200円、心理学科3,500円、左記以外500円未満:2015年度平均額)が必要
4	大妻女子	社会情報	250,000	755,000	420,000		37,650	1,462,650	5,100,600	実験実習の材料費およびオリエンテーション旅行費等は実費を別途納入。資格取得希望者は課程履修費を所定の時期に別途納入
5	実践女子	人間社会	240,000	740,000	320,000		37,010	1,342,010	4,648,040	その他は新入生セミナー費
6	東洋	経済	250,000	710,000	220,000		10,000	1,190,000	4,010,000	学生会費1,000円が別途必要。履修科目・所属コースにより各種実習料が必要
7	東洋	経営	250,000	710,000	220,000		10,000	1,190,000	4,010,000	学生会費4,000円が別途必要。履修科目・所属コースにより各種実習料が必要
8	武蔵野	経済	250,000	700,000	162,000		16,600	1,128,600	3,764,400	後期に保険料を納入。実験や実習を伴う授業の場合(教育実習を含む)、別途、実験実習料が必要。経済学科はノートパソコンの用意が必要
9	専修	経済	260,000	732,000	250,000		24,000	1,266,000	4,284,000	学費は4回分納可(入学手続時・6月・9月・11月)
10	専修	経営	260,000	732,000	250,000		24,000	1,266,000	4,284,000	学費は4回分納可(入学手続時・6月・9月・11月)
11	専修	商	260,000	732,000	250,000		24,000	1,266,000	4,284,000	学費は4回分納可(入学手続時・6月・9月・11月)
12	駒澤	経済	200,000	690,000	222,000		45,000	1,157,000	4,028,000	履修した授業により別途実習料を徴収することがある
13	駒澤	経営	200,000	690,000	222,000		45,000	1,157,000	4,028,000	履修した授業により別途実習料を徴収することがある
14	立正	経済	283,000	694,000	231,000		31,000	1,239,000	4,107,000	
15	立正	経営	283,000	694,000	249,000		44,000	1,270,000	4,231,000	施設費は研究料および特別情報教育費。諸会費にはオリエンテーション費13,000円を含む
16	亜細亜	経済	230,000	670,000	260,000	18,000	31,000	1,209,000	4,146,000	留学経費(24万~120万円(予定)、留学先により異なる)を別途納入(希望者のみ)
17	亜細亜	経営	230,000	670,000	260,000	7,000	31,000	1,198,000	4,102,000	留学経費(24万~120万円(予定)、留学先により異なる)を別途納入(希望者のみ)
18	創価	経済	200,000	600,000	240,000		19,000	1,119,000	3,876,000	その他は在籍料。他に特別課程(教職課程など)を希望する場合は課程登録費(15,000~25,000円)が必要
19	創価	経営	200,000	600,000	240,000		19,000	1,119,000	3,876,000	その他は在籍料。他に特別課程(教職課程など)を希望する場合は課程登録費(15,000~25,000円)が必要
20	東海	政治経済	300,000	650,000	544,000		59,200	1,553,200	5,312,800	
21	東京経済	経済	100,000	768,000	270,000		58,800	1,196,800	4,487,200	
22	東京経済	経営	100,000	768,000	270,000		58,800	1,196,800	4,487,200	
23	共立女子	家政(食物栄養<食物学>)	150,000	780,000	390,000	60,000		1,380,000	5,070,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要
24		家政(食物栄養<管理栄養士>)	150,000	780,000	390,000	70,000		1,390,000	5,110,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要
25		家政(上記以外)	150,000	760,000	390,000	60,000		1,360,000	4,990,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要
26		文芸	150,000	680,000	390,000			1,220,000	4,430,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要
27		国際	150,000	720,000	390,000			1,260,000	4,590,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要
28	看護	150,000	1,230,000	390,000	80,000		1,850,000	6,950,000	同窓会会費50,000円、後援会費30,000円が別途必要	
女子大学平均(本学を除く)(1~5)		218,000	768,120	314,000	50,000	60,230	5,000	1,359,304	4,783,216	
全体平均(本学を除く)(1~22)		224,818	711,391	269,545	25,000	37,682	41,667	1,250,815	4,328,804	
共学大学平均(6~22)		226,824	694,706	256,471	12,500	32,376	60,000	1,218,906	4,195,153	
共立女子大学区ジネス学部(仮称)		150,000	750,000	390,000	-	-	-	1,290,000	4,710,000	

共立女子大学既設学部就職状況

学部・科	項目	平成25 2013	平成26 2014	平成27 2015	平成28 2016	平成29 2017	5ヵ年 平均
家政学部被服学科	卒業者	107	96	89	102	98	98.4
	求職者	96	93	78	94	88	89.8
	就職者	91	87	75	92	87	86.4
	就職率	94.8%	93.5%	96.2%	97.9%	98.9%	96.2%
家政学部食物栄養学科	卒業者	107	94	111	117	108	107.4
	求職者	99	92	103	107	103	100.8
	就職者	93	87	102	105	98	97.0
	就職率	93.9%	94.6%	99.0%	98.1%	95.1%	96.2%
家政学部建築・デザイン学科	卒業者	99	105	100	95	90	97.8
	求職者	87	97	93	85	80	88.4
	就職者	78	90	82	83	74	81.4
	就職率	89.7%	92.8%	88.2%	97.6%	92.5%	92.2%
家政学部児童学科	卒業者	104	104	107	104	112	106.2
	求職者	99	98	103	99	108	101.4
	就職者	99	98	103	98	108	101.2
	就職率	100.0%	100.0%	100.0%	99.0%	100.0%	99.8%
文芸学部文芸学科	卒業者	395	315	357	358	366	358.2
	求職者	348	278	315	319	338	319.6
	就職者	306	248	287	219	315	275.0
	就職率	87.9%	89.2%	91.1%	68.7%	93.2%	86.0%
国際学部国際学科	卒業者	270	273	276	291	266	275.2
	求職者	241	241	255	276	243	251.2
	就職者	219	223	244	270	239	239.0
	就職率	90.9%	92.5%	95.7%	97.8%	98.4%	95.1%
看護学部看護学科	卒業者	/			86	96	91.0
	求職者				84	93	88.5
	就職者				84	93	88.5
	就職率				100%	100%	100.0%
学部計	卒業者	1,082	987	1,040	1,153	1,136	1079.6
	求職者	970	899	947	1,064	1,053	986.6
	就職者	886	833	893	951	1,014	915.4
	就職率	91.3%	92.7%	94.3%	89.4%	96.3%	92.8%

共立女子大学
「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
【企業対象調査】
結果報告書

平成31年1月
株式会社 進研アド

企業対象 調査概要

1. 調査目的

2020年4月に開設予定の共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」の新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

2. 調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、石川県、静岡県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、岡山県、広島県、愛媛県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	1,200件
	回収数 (回収率)	303件 (25.3%)
調査時期		2018年10月15日(月)～2018年11月9日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

企業対象調査
・本社所在地 ・業種 ・従業員数 ・採用したい能力・特性 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」の社会的必要性 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生に対する採用意向 ・「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生の毎年の採用想定人数

企業対象 調査結果まとめ



企業対象 調査結果まとめ

回答企業(回答者)の属性

※ 本調査は、共立女子大学が新たに設置予定の「ビジネス学部 ビジネス学科」に対する人材需要を確認する目的の調査として設計した。そのため、共立女子大学卒業生が就職している、もしくは就職先として想定される企業の人事関連業務に携わっている人を対象に調査を実施し、303件から回答を得た。

- 回答企業の本社(本部)所在地は、共立女子大学の所在地である「東京都」が90.4%で最も多い。次いで、「大阪府」が3.3%。
- 回答企業の業種としては、「卸売・小売業」が24.8%で最も多い。次いで、「製造業」(13.9%)、「サービス業」(13.5%)と続く。
- 回答企業の従業員数(正規社員・職員)は、「100名～500名未満」が28.7%で最も多く、次いで、「1,000名～5,000名未満」が26.1%と続く。

回答企業の採用したい能力・特性

- 回答企業の採用したい能力・特性は、「主体性(物事に進んで取り組む力)」が82.2%で最も高い。次いで、「実行力(目的を設定し確実に行動する力)」が76.9%と続く。

企業対象 調査結果まとめ

「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度(※)は、5項目中3項目で9割を超える。
- 中でも、「組織やチームの中で他者と協働し、課題解決に導くためのリーダーシップ開発」が97.4%で最も高い。
- 次いで、「入学から卒業までの充実したキャリア形成支援」が92.4%、「ビジネスの現場で活躍するための『経営・マネジメント』『マーケティング』『経済』『簿記・会計』主要4分野の専門知識の修得」が91.4%と続く。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

「ビジネス学部 ビジネス学科」の社会的必要性

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」の社会的必要性について、「必要だと思う」と答えた企業は96.0% (291件)と、多くの企業でこれからの社会にとって必要だと認識されている。

「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生に対する採用意向／毎年の採用想定人数

- 「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は94.1% (285件)と、予定している入学定員(150人)を上回る。
- 「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生を「採用したいと思う」と答えた285件に対し、「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聴取したところ、合計は585名程度であった。
- 以上のことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

企業対象 調査結果まとめ

採用意向 属性別傾向

◇本社所在地別

- 共立女子大学の所在地である「東京都」の企業からの採用意向は、93.8% (257件)と予定している入学定員数(150人)を上回る。また、「その他道府県計」は96.6% (28件)。

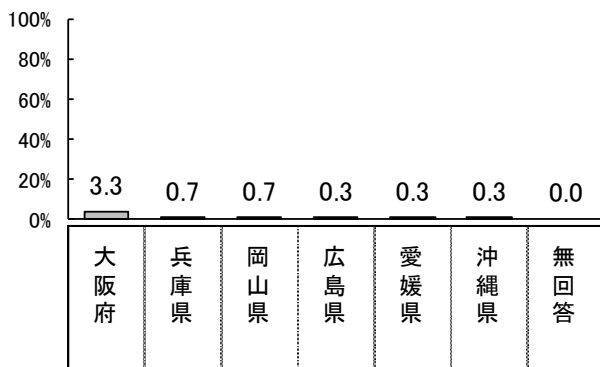
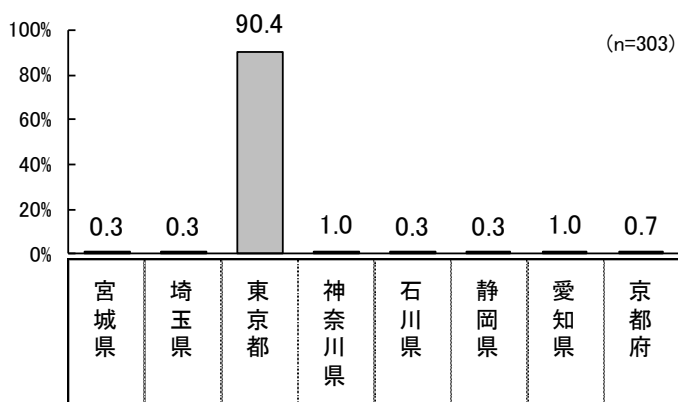
企業対象 調査結果



回答企業(回答者)の属性(本社所在地/業種)

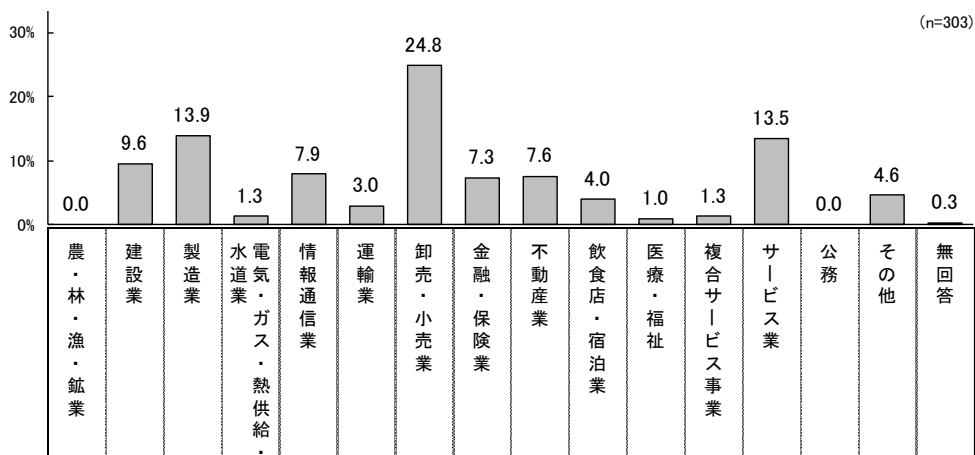
■本社所在地

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



■業種

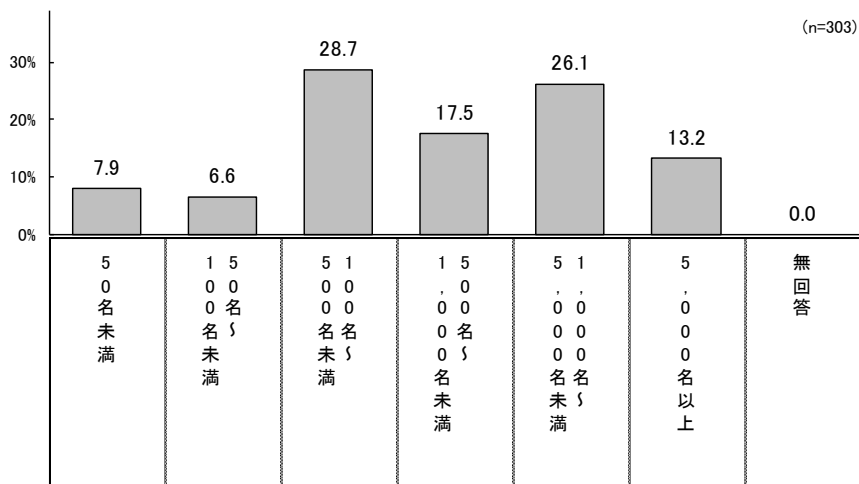
Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(該当するもの1つに☑)



回答企業(回答者)の属性(従業員数/採用したい能力・特性)

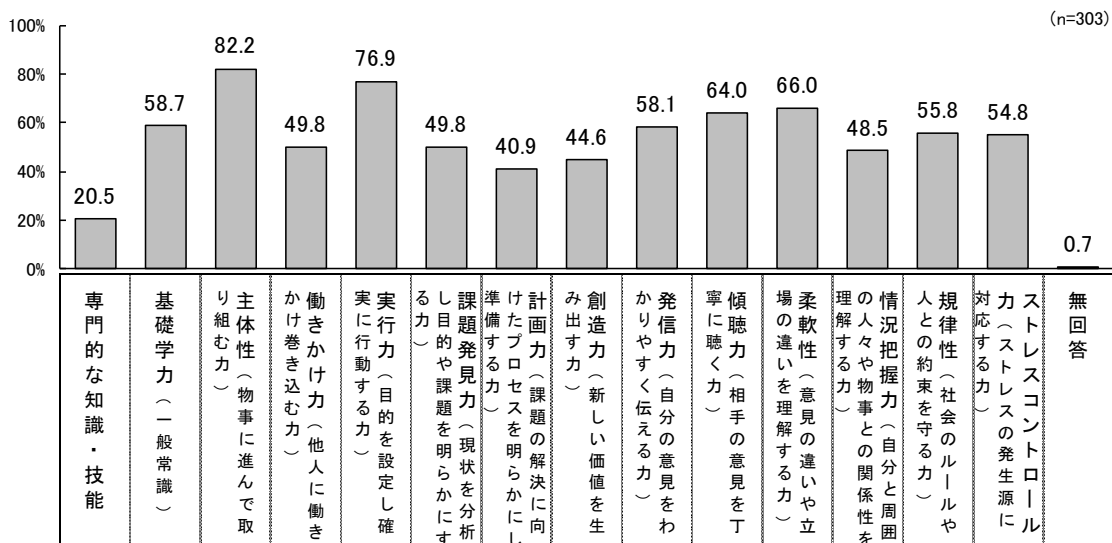
■従業員数

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(該当するもの1つに☑)



■採用したい能力・特性

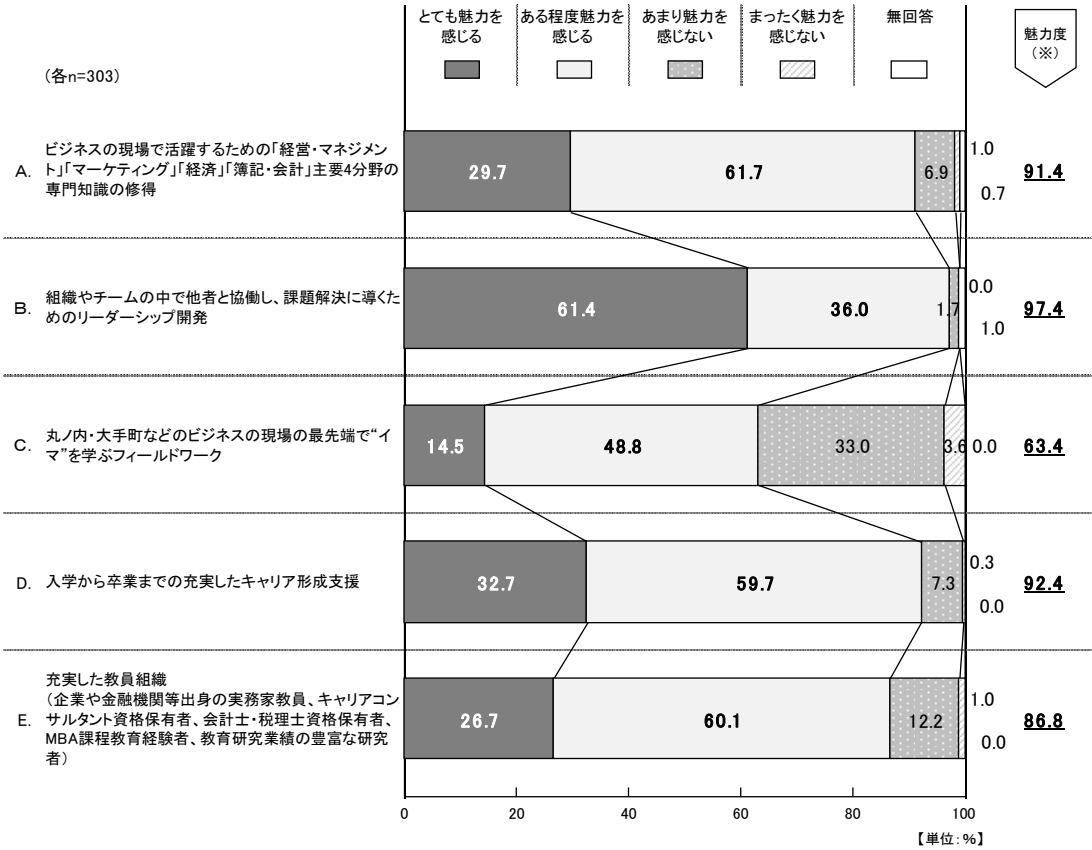
Q4. 貴社・貴団体では、どのような能力・特性を身につけた人物を採用したいとお考えですか。(該当するものすべてに☑)



「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

■「ビジネス学部 ビジネス学科」の特色に対する魅力度

Q5. 共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。
 貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれどの程度魅力に感じますか。
 (それぞれ該当するもの1つに☑)



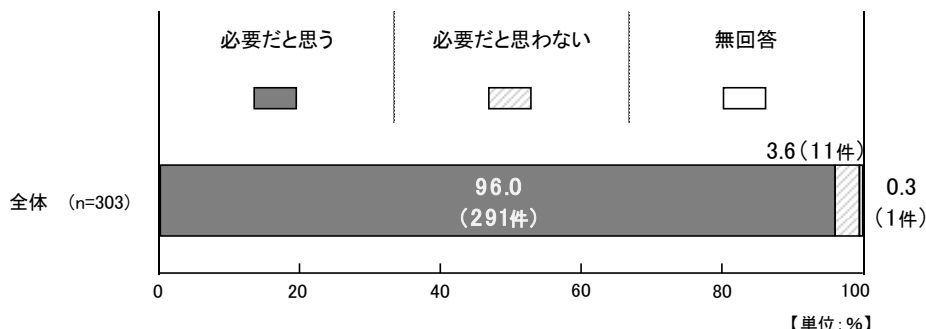
※魅力度=「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

「ビジネス学部 ビジネス学科」の社会的必要性／ 卒業生に対する採用意向／卒業生の毎年の採用想定人数

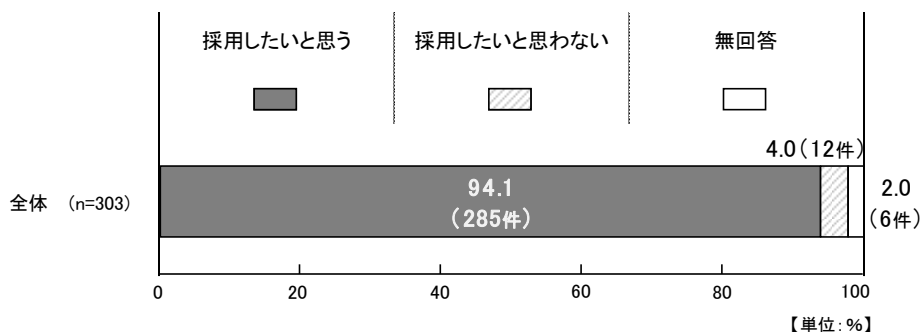
■「ビジネス学部 ビジネス学科」の社会的必要性

Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)はこれからの社会にとって必要だと思いますか。(該当するもの1つに☑)



■「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体では、共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思いますか。(該当するもの1つに☑)



「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生を
「採用したいと思う」と答えた285件のみ抽出

■「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生の毎年の採用想定人数

Q8. Q7で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。
採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。(該当するもの1つに☑)

調査数	単位	1名	2名	3名	4名	5名 ～ 9名	10名 以上	人数は未確定	無回答	毎年の採用想定人数・計※(名)
		%	件	%	件	%	件			
全体	285	16.5	8.8	11.9	1.1	6.3	4.9	50.5	0.0	⇒ 585
		47	25	34	3	18	14	144	0	

※ 毎年の採用想定人数・計 「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生に対する採用意向 ＜属性別＞

■「ビジネス学部 ビジネス学科」卒業生に対する採用意向

Q7. 貴社・貴団体では、共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思えますか。(該当するもの1つに☑)

＜属性別＞



卷末資料 調查票



企業対象 調査票

18017

No.

共立女子大学 ビジネス学部 ビジネス学科(仮称、設置構想中)に関するアンケート

<アンケート協力のおお願い>

共立女子大学は、「ビジネス学部 ビジネス学科(仮称)」を2020年4月の開設を目指し、検討を進めています。このアンケートは企業の皆様からご意見をお伺いし、より充実した学部・学科にするための参考資料とさせていただきますので、ご協力をお願いいたします。

なお、このアンケートで得た情報や回答内容は、上記の目的のための統計資料としてのみ活用します。企業や回答者個人が特定されることは一切ありませんので、率直なご意見をお聞かせください。

※このアンケートや同封した資料に記載されている「ビジネス学部 ビジネス学科(仮称)」に関する事項はすべて予定であり、内容が変更になる場合があります。

記入の方法

1. 回答は、あてはまる項目の□枠に✓をつけてください。
2. この用紙は、電算処理しますので、汚さないようにしてください。
3. 記入にあたっては、必ず鉛筆またはシャープペンシルで濃く書いてください。
4. 質問により、1つだけ答えるものと、複数答えるものがあります。
5. 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

【記入例】

Q. どのような系統の学部を卒業した人物を採用したいですか。(1つづつでも)

- | | | | | | |
|--|--|------------------------------|--|-------------------------------|-------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 文学 | <input type="checkbox"/> 法学 | <input type="checkbox"/> 社会学 | <input checked="" type="checkbox"/> 文学 | <input type="checkbox"/> 法学 | <input type="checkbox"/> 社会学 |
| <input type="checkbox"/> 語学 | <input checked="" type="checkbox"/> 国際関係 | <input type="checkbox"/> 語学 | <input checked="" type="checkbox"/> 語学 | <input type="checkbox"/> 国際関係 | <input type="checkbox"/> 国際関係 |

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社(本部)所在地 都 道 府 県 ←1つだけ

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(該当するもの1つに✓)

- | | | |
|--|----------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 農・林・漁・鉱業 | <input type="checkbox"/> 運輸業 | <input type="checkbox"/> 医療・福祉 |
| <input type="checkbox"/> 建設業 | <input type="checkbox"/> 卸売・小売業 | <input type="checkbox"/> 複合サービス事業 |
| <input type="checkbox"/> 製造業 | <input type="checkbox"/> 金融・保険業 | <input type="checkbox"/> サービス業 |
| <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 | <input type="checkbox"/> 不動産業 | <input type="checkbox"/> 公務 |
| <input type="checkbox"/> 情報通信業 | <input type="checkbox"/> 飲食店・宿泊業 | <input type="checkbox"/> その他 |

Q3. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員・職員)について、ご回答ください。(該当するもの1つに✓)

- | | | |
|-------------------------------------|--|--|
| <input type="checkbox"/> 50名未満 | <input type="checkbox"/> 100名～500名未満 | <input type="checkbox"/> 1,000名～5,000名未満 |
| <input type="checkbox"/> 50名～100名未満 | <input type="checkbox"/> 500名～1,000名未満 | <input type="checkbox"/> 5,000名以上 |

Q4. 貴社・貴団体では、どのような能力・特性を身につけた人物を採用したいとお考えですか。(該当するものすべてに✓)

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 専門的な知識・技能 | <input type="checkbox"/> 創造力 (新しい価値を生み出す力) |
| <input type="checkbox"/> 基礎学力 (一般常識) | <input type="checkbox"/> 発信力 (自分の意見をわかりやすく伝える力) |
| <input type="checkbox"/> 主体性 (物事に進んで取り組む力) | <input type="checkbox"/> 傾聴力 (相手の意見を丁寧に聴く力) |
| <input type="checkbox"/> 働きかた力 (他人に働きかけ巻き込む力) | <input type="checkbox"/> 柔軟性 (意見の違いや立場の違いを理解する力) |
| <input type="checkbox"/> 実行力 (目的を設定し確実に行動する力) | <input type="checkbox"/> 状況把握力 (自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力) |
| <input type="checkbox"/> 課題発見力 (現状を分析し目的や課題を明らかにする力) | <input type="checkbox"/> 規律性 (社会のルールや人との約束を守る力) |
| <input type="checkbox"/> 計画力 (課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力) | <input type="checkbox"/> ストレスコントロール力 (ストレスの発生源に対応する力) |

裏面へ続く→

企業対象 調査票

18018

共立女子大学では、2020年4月に、
新しく「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称)を設置することを構想しています。
※ ここからは、アンケートに同封している資料をご覧いただいた上でお答えください ※

- Q5. 共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)には、
以下のような特色があります。貴社・貴団体 (ご回答者) にとって、これらの特色は
それぞれどの程度魅力に感じますか。(それぞれ該当するもの1つに☑)

		とても 魅力を 感じる	ある程度 魅力を 感じる	あまり 魅力を 感じない	まったく 魅力を 感じない
例.	〇〇が身につきます。	→ <input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
A.	ビジネスの現場で活躍するための「経営・マネジメント」「マーケティング」「経済」「簿記・会計」主要4分野の専門知識の修得	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
B.	組織やチームの中で他者と協働し、課題解決に導くためのリーダーシップ開発	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
C.	丸の内・大手町などのビジネスの現場の最先端で“イマ”を学ぶフィールドワーク	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
D.	入学から卒業までの充実したキャリア形成支援	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
E.	充実した教員組織 (企業や金融機関等出身の実務家教員、キャリアコンサルタント資格保有者、会計士・税理士資格保有者、MBA課程教育経験者、教育研究業績の豊富な研究者)	→ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- Q6. 貴社・貴団体(ご回答者)は共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)は
これからの社会にとって必要だと思われますか。(該当するもの1つに☑)

必要だと思う 必要だと思わない

- Q7. 貴社・貴団体では、共立女子大学「ビジネス学部 ビジネス学科」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、
採用したいと思われますか。(該当するもの1つに☑)

採用したいと思う 採用したいと思わない

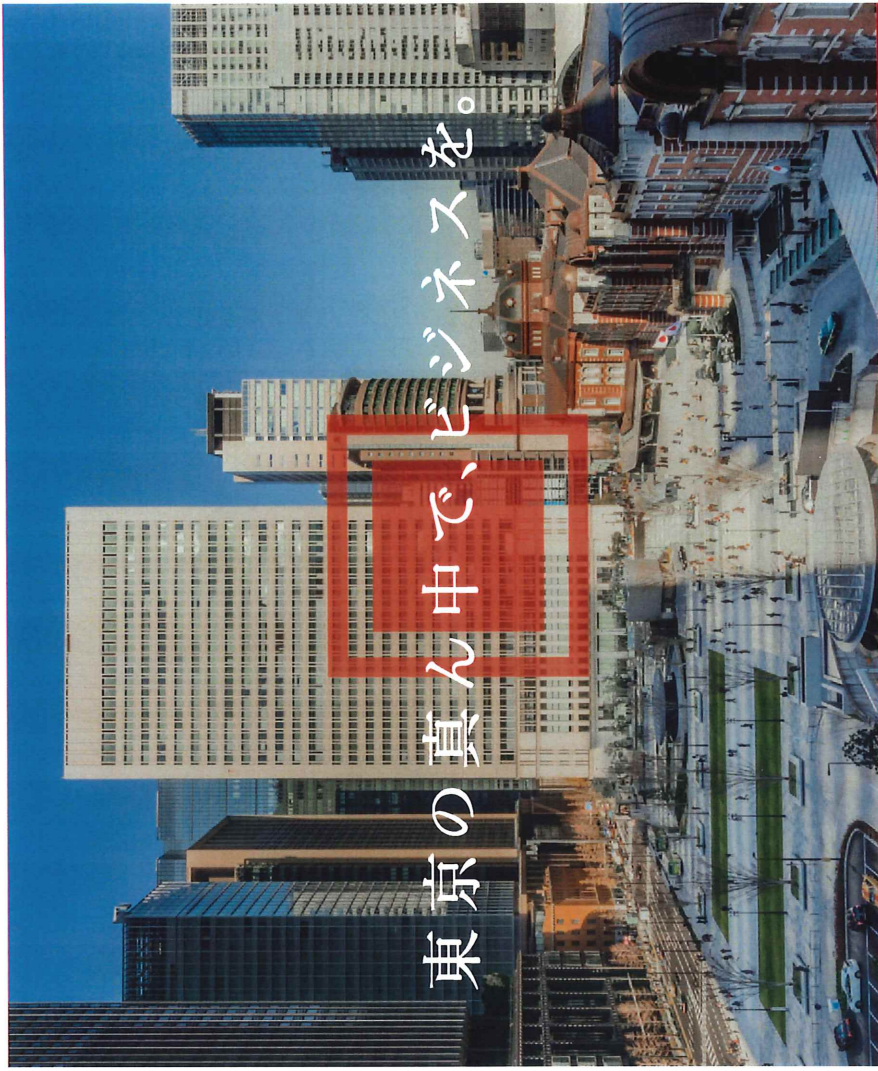
- Q8. Q7で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。

採用を考える場合、毎年何名程度の採用を想定されますか。現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。(該当するもの1つに☑)

※尚、この回答は実際の採用人数をお約束いただくものではありません。

1名 2名 3名 4名 5名～9名 10名以上 人数は未確定

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。



東京の真ん中で、ビジネスを。

ビジネスの最前線を、ビジネスの本場で学ぶ。

共立女子大学 ビジネス学部 (仮称)

2020年4月開設予定 (設置構想中)



共立女子大学・共立女子短期大学
KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY / KYORITSU WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

※設置構想中のため、掲載の内容は予定であり、変更になる場合がございます。



共立女子大学・共立女子短期大学
KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY / KYORITSU WOMEN'S JUNIOR COLLEGE

神田一ツ橋キャンパス / 〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1

お問い合わせ先 新学部設置推進室
TEL: 03-3237-1354
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/business/



異性と張り合っはダメ。
大切なのは自分の役割に気付き、
行動すること。

自立した女性とは、世の中における自分の役割”に気
付けて、行動している人。私の場合、多くの人に本物
の料理の面白さを伝え、新しい西洋文化のスタイルを飲
みかきでいくことだと思っています。役割は職種だけで
はなく、家庭で子育てに励みますることだって、社会生
活です。そして”自分の役割”に気づくためには、大
学進学時の選択の仕方にも関わります。まずは興味のあるこ
ととトライして、本物を学ぶ日を楽しみましょう。

ロイヤリティグループ・インターナショナル株式会社
代表取締役社長 宮本 志子さん

東京支店 4月新設(仮称)「Academacy」より
7月新設(仮称)「Academacy」より
7月新設(仮称)「Academacy」より
7月新設(仮称)「Academacy」より



ビジネスの現場を知る
先輩たちからの Message



高い専門力
が求められる
仕事に生きる

自分の仮説と
全く違う結果が出るどころか、
マーケティングの魅力です！

今の仕事に就いたのは、在学中、特に面白そうだと
感じたアルバイトに就くマーケティング講師や販売員
企業などか深く学べる授業を履修したことがきっかけ
でした。現在の所属部署では、商品開発担当者に向け
た市場動向の分析データなどを活用して、商品
をリニューアルする際のユーザーを把握した課長
で調査をしていただき、ユーザーの購入理由が自分た
ちの仮説と全く違う結果が出るのが初めです。マーケ
ティングの仕事は企業にとってとても重要なので、や
りがいを感じています。

クラシエホームプロダクツ株式会社
マーケティング推進部長 大竹 幸希さん
専攻学科 2013年度卒



人と組織を
支える
マネジメント

大学時代に「やりきった」
という達成感、自分と
仕事につながります。

大学時代の部活動で、共同生活を体験したこと、から、
先輩と先輩の間で仲間を巻きながら行動すること、八
チームを動かすことに気づきました。入社から6年経
過で、職場では上司のサポート業務や後輩たちの教育
するマネジメント業務を担当しています。顧客と直接や
りとりすることが多く、後輩たちの教育には大学時代
に学んだ経験も生かす、とてもやりがいを感じています。
やりきった達成感も自分自身に蓄積しています。そ
れはまた人に伝えることで、仕事で活かすコミュニ
ケーションが出来ます。どんなチャレンジも、未来の
ネットワークを築いてください。

丸紅流通力株式会社
事業部営業企画担当 原口 かな子さん
専攻学科 2018年度卒

■入学定員

ビジネス学部 (仮称) / 150名

■設置キャンパス

神田一ツ橋キャンパス (東京都千代田区)

■学費

初年度納入額 1,290,000円

※詳細内容は各学科の募集要項をご覧ください。

■類似する学部・学科

類似する学部・学科	参考(初年度納入額)
大妻女子大学 社会学部	1,462,750円
昭和女子大学 グローバルビジネス学部	1,438,000円
津田塾大学 総合経済学部	1,280,000円
専修大学 商学部	1,266,000円
東洋大学 経営学部	1,190,000円

※設置構想中

神田一ツ橋キャンパスへのアクセス



- 東京メトロ丸の内線・有楽町線・丸の内線 神田駅下車 徒歩1分
- 東京メトロ丸の内線・丸の内線 神田駅下車 徒歩1分
- 東京メトロ丸の内線・丸の内線 神田駅下車 徒歩1分

お問い合わせ先 新学部設置推進室
TEL: 03-3237-1354
http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/business/

女性のキャリアを、次の時代へ。

将来の労働人口減少を課題ととらえ、生産性向上、イノベーション、働き方改革など社会が火きく変化していく中で、国や企業は、労働市場での女性活躍、リーダーシップに期待を寄せています。「女性の自立と自活」を建学の精神とする本学は、こうした今のビジネス界において自分らしい生き方を実現しながら、社会が求める役割を果たす能力を養成するため、「ビジネス学部（仮称）」の設置を構想しています。ビジネスの場に必要な知識と、創造力や協働力などのスキルを、4年間でステップアップしながら着実に身につけられる学修とキャリア形成の教育を目指します。

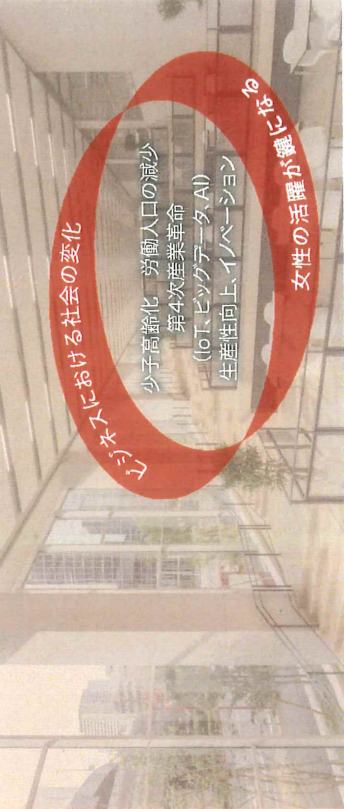
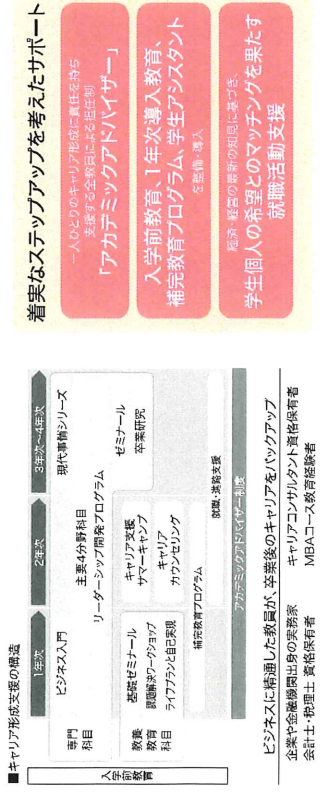
ビジネスの場に必要不可欠な知識を修得 主要4分野の専門知識

「経営・マネジメント」「マーケティング」「簿記・会計」の主要4分野を学修。さらに「法律」「情報・統計」「英語」などの広範のビジネスの現場で生きるスキルと合わせて総合的な専門性を培ったビジネスパーソンへ。



学修習熟度、就職活動までサポートする キャリア形成支援

知識やスキルが段階的に身につくカリキュラム編成を基盤にし、大学生活の基盤にし、火学生生活のスタートや習熟度のフェローなど、学修全般を重層的にバックアップ。また経済・経営の専門的な知見に基づき就職活動支援まで、貫いたサポート体制を築きます。



少子高齢化 労働人口の減少
第4次産業革命
(IoT, ビッグデータ, AI)
生産性向上, イノベーション
女性の活躍が鍵になる

知識を「使える」状態に。実践力とリーダーシップを養成 リーダーシップ開発プログラム (LDP)

時には先頭になり、時には周囲を支え鼓舞するのは、プロジェクトの中で自ら主体的に動き、周囲や他者を支援する「世界標準のリーダーシップ」です。学修知識と連携し、実践的な業務能力と推進する能力を養成する演習科目を導入します。



あらゆるビジネスシーンで生かせる実践力、求められる能力開発

FREAKS STORE

【テーマ】
アジアと香港の20~30代の若い女性のプレミアム・モデルの産物。成長を遂げた「ヒップ」の中心から伸びていくという、アジアの多様性を表現する。アジアの20代以上のモデルが、多様なファッションスタイルを提案する。

【テーマ】
アジアと香港の20~30代の若い女性のプレミアム・モデルの産物。成長を遂げた「ヒップ」の中心から伸びていくという、アジアの多様性を表現する。アジアの20代以上のモデルが、多様なファッションスタイルを提案する。

ビジネスの最先端、現場を吸収する フィールドワーク

日本の金融、経済の拠点ともいえる丸の内、大塚町の徒歩圏内にキャンパスがある立地を生かして、さまざまな企業や公的施設を訪問し、ビジネスの最先端を体験する授業を展開します。



目指す職業・職種

あらゆる企業・団体の

- 経営企画/人材開発/育成/経営支援部門
- マーケティング/商品企画/販売/販売管理
- 企画/分析/コンサルティング部門
- 経営/財務/ファイナンス部門

その他、アントレプレナー(起業家)や事業承継など、これからのライフプラン・キャリアプランを考えた多様な選択が可能。

※設置構想中のため、掲載の内容は予定であり、変更になる場合がございます。